

板 木

群馬県へき地教育研究資料第59集

平成23年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第59集

序



へき地教育資料「板木」は、その歴史が古く、へき地教育連盟発足の年である昭和27年から発刊が始まり、今年度で第59集の刊行を迎えることができました。へき地に学ぶ子どもたちのシンボルであった板木（始業などの時刻を知らせるためにたたく板）と題するこの資料は、へき地教育の着実な歩みそのものであり、手に取ってみると、へき地教育の重さを感じます。あらためて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝を表したいと思えます。

さて、小学校においては来年度から、中学校においては平成24年度から新しい学習指導要領に基づく教育課程が全面実施となります。今回の改訂においては、これまでの「生きる力」をはぐくむという理念は継承され、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成が重視されています。

群馬県教育委員会といたしましても、教育現場における課題や国における教育改革の流れを踏まえ、教育振興施策を総合的かつ計画的に推進するために、群馬県教育振興基本計画を策定し、「たくましく『生きる力』をはぐくむ」を基本目標として、本県の目指す教育の実現に向けた取組を行っているところであります。特に今年度は、この基本計画に示された「基礎・基本」の習得状況を把握・分析するための調査を実施したところであります。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など多くの施策を推進しております。

こうした中、へき地教育にかかわる先生方の御尽力により、各へき地学校においては、地域の環境を生かした特色ある教育が日々実践されております。特に自然に恵まれた教育環境を生かした体験活動や児童生徒一人一人の個性や可能性を生かしたきめ細かな指導など、温かな人間関係に支えられ、地域に根差した教育は、まさにこれからの時代を拓く子どもたちに必要とされる教育であり、その意味で今後一層へき地教育が重視されるべきものであると考えております。

このように、へき地教育の着実な充実に向けた先生方の御尽力に感謝申し上げますとともに、今後群馬県のへき地教育が更に発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力していきたいと思えます。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第59集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成23年3月

群馬県教育委員会

教育長 福島 金夫

「板木」第59集の刊行に寄せて



現代社会においては、少子高齢化の急速な進行や人とのつながりの希薄化、高度情報化社会の進展や温暖化などの環境問題の深刻化、さらに不登校やいじめ問題等、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化しております。このように変化の激しい現代社会においては、一人一人の人間が主体的・創造的に生き抜くことが求められており、そのために、次代を担う子どもたちには、「生きる力」を育むことが求められております。この「生きる力」については、新しい学習指導要領の中でも、基礎・基本を確実に身に付け自ら課題を見つけよりよく問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」の育成は、ますます重要になっています。

現在、へき地学校においては、地域社会との密接な連携のもと、豊かな自然環境や子どもたち一人一人の個性を生かした特色ある教育活動が積極的に展開されております。このような教育環境の中で、子どもたちは「生きる力」を確実に身に付けております。このことは、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

さて、群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げていることに対し、心より感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県のへき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第59集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状や課題を明確にし、今後のへき地教育の一層の振興を図る上でたいへん意義深いものと考えます。また、この「板木」は、平成20年度から県のWebページ上でも公開されております。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げまして、刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成23年3月

群馬県へき地教育振興会

会長 星野 已喜雄

「板木」第59集の発刊にあたって



群馬県へき地教育研究連盟は、県へき地教育振興会並びに県教育委員会をはじめ全国へき地教育研究連盟からの支援・協力を基に、県内のすべてのへき地学校が活気を持って教育活動に励むことを期待して諸活動に取り組んでいます。

「板木」は、へき地学校における教育活動の理解と支援を求めた広報的な役割と記録的な役割を持って今に至っています。おかげさまで59集になり、次年度には還暦を迎えるくらい歴史的な役割も持つことができている。これまでの歴史を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

昔の資料によれば、全国へき地教育研究連盟は58年前（昭和27年）に結成されました。板木が発行された時期とほぼ同じです。同連盟は、へき地教育振興法の制定（昭和29年）に向けて運動の大きなうねりを起こすとともに、同法公布後はその法律に基づくへき地の条件整備を中心に運動を進めてきました。そもそもへき地教育振興法は、教育の機会均等の趣旨やへき地における教育の特殊事情にかんがみ、国や地方公共団体の責任でへき地における教育の振興や教育の水準の向上を図ることを目的として制定された法律です。その結果、へき地における教育条件整備が大いに改善されてきました。一例としては交通事情の改善もあり教職員はほとんど自宅通勤ができるようになりました。しかし今般、20年ぶりに同法施行規則の一部を改正する省令が施行され、関連してへき地学校の級地の見直しがあり、へき地学校の教育活動に先行き不安をもたらす動きが出ていることも事実です。今後は、関係各位のご支援をいただき、是非とも今までの理念を継続していただき、へき地教育に国民的な理解と支援をお願いし、へき地教育環境の充実を期待するものであります。

一方で、へき地教育の実践研究の深化・充実が群馬県へき地教育連盟の大きな使命です。連盟ではへき地学校の児童・生徒特有の「閉塞性からの脱却」や極小規模学校教師特有の「教師の学び合い」の課題を解決することに役立つ県へき地教育研究大会やブロック別実践研究集会を開催しています。板木は、その概要を掲載したり、全国へき地教育研究大会（広島大会）の参加者からの報告を掲載したりすることで、へき地学校現場の教師に洗練された貴重な研修材料を提供することの役割も担っています。是非、今後とも研究大会等の学びの場により多くのへき地学校教師の参加を実現し、へき地教育の水準の向上を高めていただければ幸いに思います。

さて、新教育課程への移行（小学校は23年度より完全実施。中学校は24年度より完全実施）により、益々、地域や学校の実態を十分に配慮した教育活動が期待されると共に児童・生徒の生きる力をはぐくむことが重要になってきました。群馬県を見渡すと、山間多雪地の限界集落化した山村へき地にある極小規模校では、交通事情の改善とは別に「少子化・過疎化」という「人そのもの」が根っこになっている大きな課題を有しています。そこでは学校統合の不安の暗雲を払拭するかのよう、地域と学校が緊密で人間味ある微笑ましい連携を基に、生きる力を身に付けるべく活気ある人間教育を続けているのです。《♪この地からすばらしい人材を～》のように聞こえる校歌を児童・生徒全員で元気いっぱい歌う声が、今日もさわやかな風に乗って日本中に響いていくような気がします。群馬県のへき地教育の今後の明るい未来に、これからも期待したいと思います。

終わりにになりましたが、第59集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただいた委員の方々へ心よりお礼を申し上げますとともに、ご指導ご支援いただいている県教育委員会及び県へき地教育振興会をはじめ、関係機関の皆様へ深く感謝を申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成23年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 小野塚 則幸

も く じ

序 文

県教育委員会教育長

県へき地教育振興会長

県へき地教育研究連盟理事長

第 1 部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

へき地学校の変遷 ----- 1

II へき地の学校経営

幼小中学校の連携と地域に根ざす開かれた学校 ----- 2

東吾妻町立坂上小学校長 中澤 和則

小中併設校のよさを生かした学校経営 ----- 4

みなかみ町立藤原中学校長 石北 直樹

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら考え、思いを表現できる児童の育成 ----- 6

～言語を用いての活動を生かす学習活動の工夫～

上野村立上野小学校長 平林 茂

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校 心豊かでたくましい児童の育成を目指して ----- 8

みなかみ町立幸知小学校長 原澤 和弥

〈2〉中学校 小学校・中学校の連携を図る生徒指導 ----- 10

甘楽町立第三中学校教諭 岩井 善彦

第 2 部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 平成22年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長 ----- 12

沼田市立平川小学校長 吉野 隆哉

C分科会	「豊かな学び」を身につけた子どもの育成 ----- 3 5 ～学びのプロセスを中心とした、 情報活用能力を高める授業づくりを通して～ 高崎市立倉渕東小学校教諭 清水 淳志
D分科会	ふるさとの学びを生かし 豊かに表現する子どもの育成 ----- 3 6 ～ふるさとの学びとひびきあう関わりを通して～ 中之条町立六合中学校長 小野塚則幸
F分科会	説明力を育てる教育の創造 ----- 3 7 ～算数科・理科の授業改善を通して～ 群馬県教育委員会義務教育課指導主事 飯泉 尚士
G分科会	思考力・表現力を高めるための授業づくり ----- 3 8 ～小規模校の特色を生かした 口和中学校「学びのサイクル」に基づく授業～ 東吾妻町立岩島中学校教諭 小林 秀之

《資 料》

I	平成22年度へき地学校資料 ----- 3 9
II	平成22年度群馬県へき地教育振興会役員 ----- 4 2
III	平成22年度群馬県へき地教育研究連盟役員 ----- 4 3
IV	平成22年度群馬県へき地教育センター指導員 ----- 4 4
V	平成22年度へき地教育功労者 ----- 4 5

あとがき ----- 4 7



広島大会全体会会場(広島国際会議場)



第59回全国へき地教育研究大会(広島大会)全体会

第 1 部

へき地教育の振興



群馬県へき地教育研究大会 開会式



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
小学校 1 班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
小学校 2 班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
中学校班

I 変貌するへき地の学校

へき地学校の変遷

(平成11年度～21年度末)

年 度	学 校 名	変遷の内容
平成11年度	片品村立片品小学校東小川分校 〃 越本分校	閉校（平成12年3月）となり、本校に統合。
	利根村立根利中学校	閉校（平成12年3月）となり、利根中学校へ統合。
平成12年度	（勢）東村立沢入小学校	閉校（平成13年3月）となり、花輪小学校、杲小学校と統合し、「あずま小学校」となる。
	利根村立西小学校園原分校	閉校（平成13年3月）となり、本校へ統合する。
平成13年度	南牧村立南牧小学校	閉校（平成14年3月）となり磐戸小学校へ統合。
平成14年度	利根村立南郷小学校 〃 根利小学校	閉校（平成15年3月）となり、西小学校へ統合。
	新治村立入須川小学校	閉校（平成15年3月）となり、須川小学校へ統合。
平成15年度	神流町立中里小学校	閉校（平成16年3月）となり、万場小学校へ統合。
	神流町立万場中学校	閉校（平成16年3月）となり、中里中学校へ統合。
	藤岡市立日野中央小学校 〃 日野西小学校	閉校（平成16年3月）となり、日野小学校へ統合。
	藤岡市立日野東小学校	名称を変更して「日野小学校」となる。（平成16年4月）
	藤岡市立南中学校	閉校（平成16年3月）となり、藤岡西中学校へ統合。
	下仁田町立東中学校 〃 西中学校	閉校（平成16年3月）となり、下仁田中学校へ統合。
平成16年度	中之条町立第三小学校	閉校（平成17年3月）となり、第二小学校と統合し、「沢田小学校」となる。（平成17年4月）
	榛名町立第四小学校	閉校（平成17年3月）となり、第三小学校へ統合。
	南牧村立南牧中学校	閉校（平成17年3月）となり、磐戸中学校と統合し、「南牧中学校」となる。（平成17年4月）
平成18年度	吉井町立入野小学校多比良分校	閉校（平成19年3月）となり、入野小学校と統合する。（平成19年4月）
平成19年度	みなかみ町立須川小学校 〃 猿ヶ京小学校	閉校（平成20年3月）となり、小学校へ統合する。（平成20年4月）
	六合村立第一小学校 〃 入山小学校	閉校（平成20年3月）となり、六合小学校へ統合する。（平成20年4月）
平成20年度	渋川市立三原田小学校栄分校	閉校（平成21年3月）となり、本校へ統合する。

Ⅱ へき地の学校経営

幼小中学校の連携と地域に根ざす開かれた学校

東吾妻町立坂上小学校長 中澤 和則

1 学校の概要

本校の学区（坂上地区）は、上州豊岡宿と信州とを結ぶ旧街道を忍ばせる、歴史の残った静かな山間にある。今でも街道沿いには宿場の景観が残っている街並みがあり、緑豊かな自然と田園が広がっている。

坂上地区には大字ごとに5つの小学校があったが児童数の減少により昭和49年に今の坂上小学校に統合した。統合当時の児童数は424名であったが平成22年度は103名で今後も減少していく傾向にある。校区が広いため約8割の児童がスクールバスで通学している。

2 学校経営方針

(1) へき地小規模校の特色ある学校経営

地域に根ざした開かれた学校 → 伝統行事への協力や参加体験を積極的に行い、地域の活動や人々からの学びの機会を充実する。

(2) 学び方を身につけた学力の向上

(3) 児童一人ひとりの充実した学校生活の実現

(4) 人権や生命の尊重、安全と健康管理の推進

(5) 児童の期待に応え職能成長を図る教師集団

(6) 坂上地区幼小中の連携と一貫した指導の確立

連携して児童の発達に添う一貫した指導支援態勢 → 基本的な生活習慣、学習習慣の定着を図る。

3 実践の概要

(1) 幼小中の連携と指導支援への取り組み

坂上幼稚園、坂上小学校、坂上中学校は隣接し通路でつながっている。地域の子どもたちの実態や課題を校種を超えて話し合い、工夫して指導支援態勢を図ろうとする取り組みである。

① 小中連携会議 毎月1回開催 参加者は校長、教頭、教務主任

② 小中連携全体会 夏季休業中に開催

全教員が小グループに分かれて地域の子どもたちの課題について話し合う

- ・学習のルール、家庭学習、家庭への連絡や通知の徹底について9年間を見通して取り組みそうな指導のあり方
- ・携帯電話の所持や利用についての小中の連携指導のあり方
- ・家庭訪問の時期の調整
- ・登下校の安全（スクールバス、自転車）やあいさつの励行

③ 幼小合同会議

合同運動会に向けての会議では幼児と児童の全員が協力してできる競技等を検討

その他、PTA親善スポーツ大会、収穫祭、奉仕作業など幼小合同行事前に会議を開催

④ 小学校児童の幼稚園での出前活動

読み聞かせ、紙芝居、手洗い指導

⑤ 幼小中の全通信やお便りの交換

各園、校に連携専用のボックスを用意し配布書類を入れておき、定期的に交換する

⑥坂上地区小・中学校教育懇談会（温川の会） 年3回開催

民生委員、校長、教頭が参加し地域での子どもたちの活動について情報交換する

⑦坂上保育園、幼稚園、小中学校全職員懇親会 小中連携全体会后に開催

坂上地区の教育にかかわる全職員の顔合わせと情報交換

(2)地域に根ざした開かれた学校への取り組み

①地域の伝統行事への協力

学校では指導計画（社会や総合的な学習の時間）の中に、子どもたちが地域の歴史や伝統芸能、文化財等について調査や体験する機会を位置づけ、講師を地域の人に依頼している。反対に、学校へ依頼されることとして、例えば学校近くの吉岡神社の春季大祭では神楽が奉納されているが、神楽を見たり投げられた餅を拾ったりする役として子どもたち全員に参加要請があり、子どもたちが伝統を引き継ぐ地域の一員としての役割を果たすことに学校として協力している。

お祭りを見に行くだけでなく、畔宇治神社の獅子舞では子どもたちが地域の大人たちと一緒に休日や夜間に練習を重ね、伝統文化が引き継がれている。小正月の鳥追いという行事では子どもが獅子の先導をして地域の一軒一軒を回るということが行われている。これらは児童全員が体験しているのではないが、また地域によって取り組みに違いはあるが、子どもたちが地域の一員として伝統文化を引き継ぎ、地域の教育力によってたくましく成長していることを理解し支援をしていることである。



校外学習で獅子舞を友だちに披露する児童

②温川スケート場の運営

厳しい寒さであるが雪が少ないという自然環境の中で温川スケート場は開設された。公民館、大字本宿区が運営の主体となり PTA が協力し冬季休業中に開かれている。授業日には学校が体育の授業で利用している。スケート場は氷のでき方が重要である。スケート場の整備、水まきや雪かきなどの管理はすべて運営委員会と PTA の当番によって行われ、学校は利用させていただいているだけである。子どもたちが冬のスポーツであるスケートにより関心を持ち、技術を高め、大会やバッジテストへすすんで取り組もうとする姿勢を支援することが学校の役目であり、地域の人たちの子どもたちへの思いや期待に応えることである。

4 おわりに

来年度以降は全児童数が二桁になる見通しである。しかし、昨年度は1名、今年度は3人の転入生を迎えた。彼らの転校前の学校はすべて大規模校であった。児童数が多い学校では休み時間に遊ぶとしてもボールに触る機会、鉄棒にぶら下がる機会などほとんどなかったのではなかろうか。小規模校では、ボールに触らなくてはならない、鉄棒にぶら下がらなくてはならない、授業の中で自分の考えを言わなければならない、学級での役割を果たしリーダーとして動かなければならないなど隅で控えてはられないのである。子どもたち一人ひとりが全員主役とならざるを得ない理想的な教育環境が小規模校にはある。転入生はその環境をすごく気に入ってくれている。

地域の未来を切り開く子どもたちを幼稚園、小・中学校と地域がより連携し、またそのあり方を見直しながら子どもたちの真に生きる力を育てていきたい。

小中併設校のよさを生かした学校経営

みなかみ町立藤原中学校長 石北 直樹

1 本校の概要

本校は、平成20年4月1日に群馬県内で二校目となる藤原小学校と藤原中学校の併設校としてスタートした。小学校の校舎とは連絡通路を挟んで隣接しており、職員室は中学校側に併合され一つとなり、児童生徒用玄関も中学校校舎になった。中学校長が小学校長を兼務、小中に教頭をそれぞれ配置し、教員及び非常勤講師をもって児童・生徒の教育活動に当たっている。小学生16名、中学生5名の極小規模校である。校庭は中学校の校庭を使用し、昨年度の耐震工事の際、小学校の遊具は中学校の校庭に新設されたため、管理運営上容易になった。

児童生徒は、バス通学をする5名以外は基本的に徒歩で通学している。学校は宝台樹スキー場へ登る道路の途中に位置しているため、通学路は1～2kmを上り下りするため決して楽ではない。また、有害鳥獣（猿、熊等）の出没、観光客やスキー客との交通事故への心配も大である。

2 学校経営の方針

小規模な小中併設校の利点を生かした活力ある学校経営の推進はいかにあるべきか、以下のよう
に考える。

(1) 協働参画の学校経営・「藤原小・中学校の職員であることの自覚」

◎生徒の主体性・社会性を育成する学校運営 ⇒ 学校行事を通じた児童生徒の育成（地域人材の活用、地域の諸行事への参加等）

- ・協働・・・協力して働くこと。自らのもつ考えやよさを発揮
- ・参画・・・計画の立案に加わること ⇒ 新しい学校づくりに取り組む
自らの考えを発信すること ⇒ 共通理解・共通指導に取り組む

(2) 学力の高い学校の創造・「高い資質・能力をもった教師集団」

◎教員の兼務発令 ⇒ 教員の専門性を生かし、小学校高学年への指導
中1ギャップの解消（英語、理科、音楽、体育）、養護教諭

- ・生徒一人一人に対して責任をもった指導（学習指導、生徒指導）
- ・生徒の判断力・思考力・表現力を育成する授業の実施（授業構想、単元構想）
- ・日々の1単位時間の指導の充実・積み重ねをする（ねらいを明確にした週案簿の作成）

(3) 笑顔に満ちた学校の創造・「生徒一人一人の心に寄り添った生徒指導」

◎「無財の七施」運動の推進

- ・授業こそ生徒指導の場であることを基本においた生徒指導（情報の共有化）
- ・生徒一人一人の心に寄り添ったきめ細かな指導を実施
- ・どんな小さなことでも一人で抱え込まない ⇒ 報告・連絡・相談。協働態勢の推進
- ・スクールカウンセラーと連携した指導の推進 ⇒ 職員の指導力向上へ結びつける

3 実践の概要

本校は、旧水上町の中心から、さらに北へ15kmほど利根川を遡った山間部に位置する。昭和34年完成の藤原ダムにより当時の集落の大半（159戸）が水没するにあたり、新たに移転して形成された地域である。このような歴史の中で、学校と地域は密接な関係を保ちながら今日に至っている。

以下、地域の教育力を生かし、地域とともに歩む本校の学校経営の状況を諸行事の一部を通して紹介したい。

◎ 児童会・生徒会奉仕作業



藤原小・中学校は、地域の特性として冬場の体育の授業、体力づくりの一貫としてスキー授業に重きを置いている。宝台樹スキー場が学校の指呼の距離に位置し、昭和54年開設の当時から本校は強力な支援・協力をいただいている。このようなことにより、冬場お世話になるため、雪が溶ける春にスキー場のゴミ拾いを中心に行っている。また、スキー場から学校までの道路沿線のゴミ拾いを続けて行い、地域の環

境美化に一役買っている。

◎ 小学校田植え・稲刈り作業

毎年、地域の老人会の方々と農業委員さんの力を借りて、小学校の食育と総合的な学習の時間を兼ねて米作り学習が行われる。5月下旬に田植えを、10月上旬に稲刈りを行い、収穫された稲は農業委員さんにより脱穀、乾燥そして精米され、11月に行われる「ふるさと藤原祭」に郷土料理の「ぼた」にされ、食される。また、次年度の夏に行われる小中合同の林間学校（キャンプ）の夕食の主食になり、食料自給の学習に寄与している。



◎ 諏訪神社子ども奉納相撲

毎年8月17日に開催され、学校区にある諏訪神社大祭において子ども相撲を奉納する。この日、小中学生は体育着の上に褌を巻き、境内にある土俵で相撲をとる（強制的な参加ではない）。行司や呼び出し、安全対策を兼ねた審判は教員が勤める。職員も地域の一員として行事に参加できる好機でもある。



◎ 秋季大運動会

毎年小中合同で実施し、他に保育園、婦人会、消防団、地域住民も加わり、運動会を盛り立てて



いただいている。夏休み前に合同の役員会議を開き、演目の内容や時間等を打ち合わせ、共通理解を図る。

小中学校だけでは成り立たず、藤原地区住民と交流する重要な行事の一つとして位置づけられる。

◎ ふるさと藤原祭



運動会に次ぐ大きな行事である。小学校主催の行事であったが、併設後は小中学校共通の行事として位置づけている。

開催においては、回覧板にて日時と内容を地域全戸に周知し、地域へのご恩返しの意味を込め、藤原小中学校の子どもたちの成長ぶりを普段の学習のまとめや音楽発表等を通してご覧いただく機会としている。毎年楽しみにしている方々も多く、学校と地域とのコミュニケーションの場として重要な意味を持つ。

4 おわりに

ダム建設時には藤原中学生が120名を超えた時もあったそうだが、年とともに児童・生徒数は減少の一途をたどる。しかし、地域の学校に寄せる思いや期待感は変わることがない。極少数数の状況で、児童生徒にいかに社会性やコミュニケーション能力を高めていくかが大きな課題である。

平素の教育活動により、また、地域の多くの方々との交流を通して、多様な知恵や伝統、文化を吸収することにより、子どもたちの生きる力は一層醸成されていくに違いない、と考える。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら考え、思いを表現できる児童の育成

～言語を用いての活動を生かす学習活動の工夫～

多野郡上野村立上野小学校長 平林 茂

1 学校・地域の概要

本校は、県の南西部に位置し、南は埼玉県、西は長野県に境を接する山間地にあり、全校児童 59 名の小規模校である。通学域が広いため児童の約 7 割がスクールバスや定期バス通学になっている。都市部より I ターンで移住してきた家庭の児童も 25% をこえており、また、村内にある「山のふるさと合宿・かじかの里学園」に山村留学した児童も通学している。

2 校内研修の主題設定の理由

本校の児童の課題として、語彙の不足、筋道を立てて考えることが苦手、考えをうまく表現できない、教師が指導しすぎる、多様な考えを出し合って検討する場の不足、といったことが挙げられる。そこで思考力や表現力を「言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や表現する力」と捉えることとした。児童が自らの言葉で主体的に他者と関わり合いながら自分の考えを深めるために、修得した知識や技能を活用しながら言語を用いた活動を十分行わせるような学習活動を工夫し、ねらいを達成したいと考えた。

3 研究の概要

本校では教師の指導力の向上を図り、思考力・表現力を高める授業づくりを推進するために以下の 3 点を授業改善の柱にして取り組んできた。

(1) 言語活動を生かした授業づくり

①「言語活動のねらいの明確化」「子ども同士や教師のかかわり合う場の工夫」「学習環境の工夫」などの具体的な「しかけ」を授業につくるようにした。

～こころがけた言語を用いた学習活動の工夫例～

○体験から感じ取ったことを表現する。

○概念や法則などを自分なりに解釈し説明したり、活用したりする。

○互いの考えを比較、分析、関連づけ、既得の知識・技能との照合、分類、予想等をする。

②課題をつなぐリレー方式の研究授業

全員が研究授業年間二回ずつ行い、各授業ごとの成果と課題を明確にした。そして次の研究授業者があきらかになった課題の改善策を工夫した授業を提案することで、研究を積み重ね、継続できるようにリレー方式の研究授業を実践し、成果を日常の授業に生かせるようにした。



(自分の考えを説明する 6 年生)

(2) 児童の姿から授業を構想する。

①ワークショップの工夫

授業研究会では 3～4 人の少人数によるグループワークを行い、ホワイトボードに検討結果を構造化するようにしている。授業で提案された「しかけ」を中心に有効性やよりよい方法を議論し合うようにした。さらに、グループごとの検討内容を全体で発表し合い、評価や課題を

集約し、次回の研究授業の課題等を確認した。

②子どもインタビューの実施

研究授業後に教員で手分けをして、子どもへのインタビューを実施した。「先生が示したワークシートは自分の意見を発表する際に役立ったか?」「意見交換する際に先生のどんな言葉がけが欲しかったか?」等、教師の「しかけ」が子どもの学びの場面で、実際どうであったかを評価するものであり、指導者と学習者の意識の違いが把握でき、改善への参考となった。



(検討結果を発表、構造化する教師)

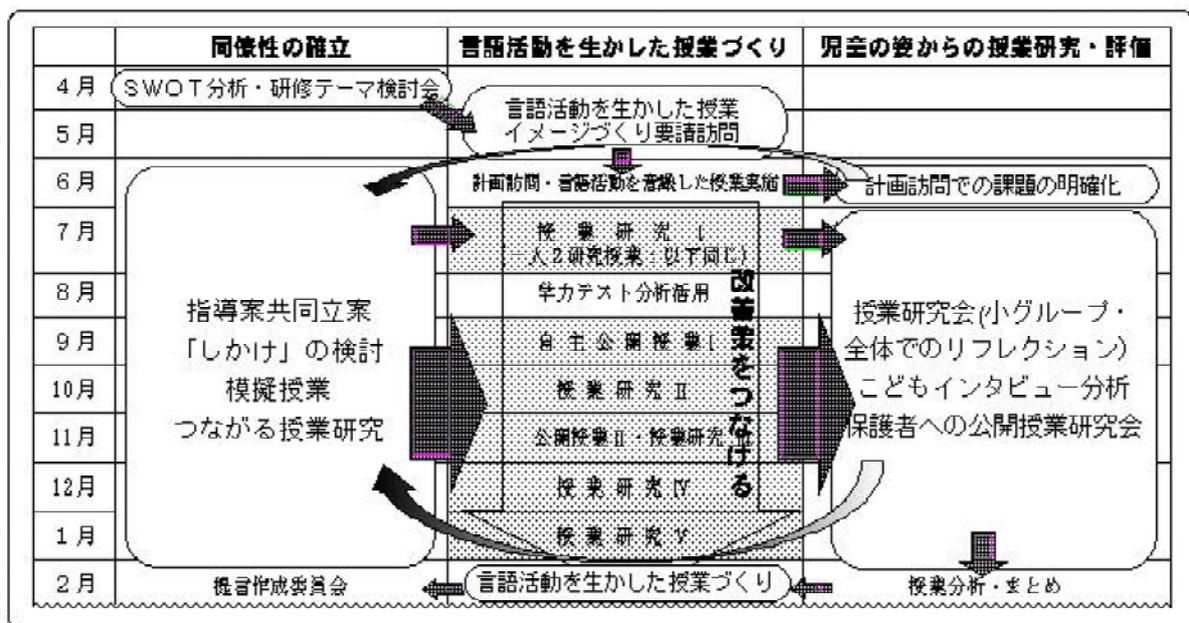
(3) 教職員間の同僚性を確立する。

本校のような小規模校では各学年1人の担任であり、へき地誓約者が多く経験年数も同じ位の教員構成となっている。そこで、どの教職員でも自信をもって授業改善や教育活動に取り組めるよう同僚性を高める工夫をしている。

4月には全員でSWOT分析を行い、研修テーマや具体的な方策を決定した。また、1学期に言語活動を生かした活用型の授業のイメージづくりやワークショップを開いて課題の持たせ方や様々なグループ構成での子ども同士のかかわらせ方などを話し合った。

特に指導案づくりは高学年・低学年ブロックの教師が協働で行うようにし、模擬授業やしかけの検討なども行うなど一体感のある授業研究を心がけた。

自主公開授業にも積極的に取り組み、外部の指導・助言もできるだけ取り入れるようにしており、年度末にはその成果をまとめ、「上野小の授業づくり」提言を作成していき、次年度の授業改善への基にしていく。



4 おわりに

自ら考え、思いを表現できる児童を目指して学習指導の改善に取り組んできた。特にその柱になる授業研究は、一人一人の教員が何より自分事として取り組み、「みんなでアイデアを出し、みんなで検討する」ことを大事にし、上図のような改善のサイクルづくりを試みた。小規模校の強みを生かし、今後も学習指導の改善を教育活動の柱に全職員一丸で取り組んでいきたい。

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校

心豊かでたくましい児童の育成を目指して

みなかみ町立幸知小学校長 原澤 和弥

1 地域・学校の概要

みなかみ町は、平成17年に水上町、月夜野町、新治村が合併し、改称した。本町は、群馬県の北部に位置し、新潟県、栃木県、福島県と県境を接している。幸知小学校は、谷川岳の麓に湯桧曾川、利根川の合流した山間にひっそりと佇んでいる。冬期は豪雪地帯で2～3mの積雪をみることができ、かつては、上越線清水トンネル工事、矢木沢ダム、奈良俣ダム、玉原ダム等の建設、上越新幹線開通に伴う工事、関越自動車道開通に伴う工事など大型の公共工事が次々に行われ地域も活気にあふれていた。大穴スキー場や天神平スキー場の他に奥利根国際スキー場が開設するなど、この地区に民宿が建ちならび温泉客や行楽客が数多く訪れていた。けれど、公共事業が終わり、景気が落ち着いてくると客の姿が減り、少子高齢化の波が押し寄せて児童数は急激に減少してきた。

本校は粟沢、綱子、幸知、湯桧曾、大穴の5地区から40名の児童が通学している。幸知小は、学区のほぼ中央に位置し、全員が徒歩で集団登校している。雨の日も雪の日も上級生が先頭と最後尾に配置し、下級生を包むように歩いてくる。

2 生徒指導の重点

(1) 生徒指導の方針

- 全教育課程を通して、児童同士及び児童と教師相互の人間関係を深め、児童の自己実現が図れるよう指導や支援を積極的に進める。
- 校内生徒指導委員会を中心に情報交換や問題行動に対する具体的な対応の検討等を行い、支援態勢づくりに努め、計画的な指導を心がける。
- 「やさしく、かしこく、たくましく、自分らしさを発揮できる子ども」を育てるため、常に課題意識をもち、実態に応じた指導に努める。
- 小規模校の特性を生かした、きめ細かな指導の推進を図り、社会性を育成する。
- 教育相談の充実を図り、児童一人一人のよさを理解し、個々の児童の悩みや願い、将来の夢等に対応できる指導を進める。
- 家庭・地域社会・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の防止・安全確保の徹底に努める。

(2) 生徒指導の努力点

- 各教科の指導の充実を図り、個々を生かす指導と評価の工夫に努めるなど、児童が自己実現できるように支援する。
- あらゆる場面をとらえて認め合い、励まし合うことのできる集団づくりを進め、より望ましい人間関係の形成を図る。
- 校内生徒指導委員会や職員会議等において、児童の生活上の諸問題を明確にし、状況に応じた的確な指導の徹底に努める。
- 児童に関する問題については、できるかぎり全職員に情報提供し、共通理解を図り指導を進める。
- 家庭や地域社会・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止、安全確保の徹底を図る。
- 不登校児童及びその兆候の見られる児童については、家庭との連絡を密にし、教育相談態勢の充実を図り、きめ細かな支援に努める。

3 具体的な取組

(1) 基本的な生活習慣の育成

○学習習慣の育成

- ・朝学習の充実（落ち着いた時間の確保）
- ・望ましい授業態度の育成 ・学習意欲の高揚 ・基礎学力の向上（発展・補充学習）
- ・「わかる、できる」を基本とする個を大切にした指導の推進
- ・お互いに認め合える授業の雰囲気づくり
- ・自分の思いや願いを豊かに表現できる力の育成
- ・自他を尊重する態度の育成
- ・異学年の交流を大切にした学校行事、諸活動の充実

○規則正しい生活習慣の育成

- ・学級活動の充実 ・道徳の授業の改善

○日常の生活場面における授業

- ・幸知小のきまりをふまえた「あいさつ」「清掃」等の率先垂範による指導
- ・「ぐんまの子どものためのルールブック50」を活用した重点化した指導

(2) 心の教育の推進、教育相談の充実

○居場所と生き甲斐に気づかせる相談の推進

○保護者及び地域と一体となった心の教育の推進

○全教育活動を通しての人権尊重、生命尊重の精神の育成

○受容と共感、相互信頼に基づく学年学級経営の充実

○いじめや不登校を出さない集団づくりの推進

○気軽に悩み事等を相談できる相談態勢の確立

○留意児童へのチャンス相談の実施

(3) 問題行動の未然防止、安全確保の徹底

- ・報告、連絡、相談の徹底と早期対応
- ・問題行動の早期発見と安全確保のための迅速な対応
- ・日常のきめ細かな観察や相談活動等による問題行動の未然防止
- ・P T A活動との関わりを重視した諸活動の充実

(4) 不登校児童等への対応

○児童理解の徹底と充実

○全職員の共通理解に基づく不登校児童への対応策の検討（不登校児童を出さない方策の検討）

○生徒指導委員会等における定期的な情報交換及び対応策の検討

○家庭訪問や個別の面談等による児童の実態把握及び個々の児童に応じた支援

○「心のノート」の活用等による問題発見及び指導助言

(5) 家庭・地域社会との連携

○家庭、地域社会、関係諸機関との連携強化

- ・信頼関係の確立
- ・家庭訪問、個別の面談等の積極的な実施
- ・定期的に地域へ出かけての声かけやあいさつ運動等の推進
- ・授業参観、学校公開の実施
- ・地域のお年寄りとのふれあい、福祉協議会との連携、地域清掃活動等の実施
- ・「ぐんまの子どものためのルールブック50」を活用し、学校と共通認識した指導

〈2〉中学校

小学校・中学校の連携を図る生徒指導

甘楽町立第三中学校教諭 岩井 善彦

1 地域・学校の実態

本校は、甘楽町の南西部の山間部に位置した山村地域にあり、自然豊かな環境に恵まれた地域である。甘楽町役場まで約6km、隣接する富岡市内まで約10kmである。上信越自動車道富岡ICから10km（20分）と高崎・前橋・東京方面への距離も近い。以前は、こんにゃく・花卉栽培などを行う農業経営が盛んであったが、現在は町内外へ通勤する人が多くなり、農業人口は減少している。この地区の歴史は古く、古来より祭礼に奉納されてきた獅子舞、神楽が無形民俗文化財として引き継がれており、伝統文化の継承は地区住民の結束の根底となっている。

過疎化が進む中、学級数は戦後最大6クラスであったが、現在は3クラスに減り、今年度の生徒数は23名である。生徒数の減少に伴い、来年度開校64年間の歴史を閉じ、隣接校である甘楽町立第二中学校と統合を控えている。

2 今年度の生徒指導の方針と努力点

(1) 方針

- ① 生徒の実態を的確に把握し、積極的な生徒指導に努める。
- ② 全職員の共通理解の基に一貫した指導を進める。
- ③ 問題行動等の的確な把握に努め、信頼関係を基盤にした適切な指導援助を行う。
- ④ 学習環境の整備充実を図り、安全性の確保に努める。
- ⑤ 家庭地域や諸機関との連携を密にし、理解と協力の下に指導援助を行う。
- ⑥ 全教育活動において師弟同行を心がける。

(2) 努力点

- ① 生徒の活動をより主体的・体験的なものとして充実させる。
(地域の良さに目を向けさせ、実践的活動を通して勤労・奉仕の心を育てる。)
- ② 個別指導の徹底を図る。TTの充実。
- ③ 基礎学力の向上を図る。家庭学習の充実。
- ④ 甘楽二中との統合に向けて大集団の中で適切に自己表現できるようにするため、言語活動の充実を図る。

3 具体的な取り組み

《小中連携を図った生徒指導の取り組み》

本校は、小学校と中学校が隣接しているという利点を生かし、生徒指導において小中学校の教職員が連携して取り組んでいる。連携の目的は、小中学校間の教職員が、小中学校間のちがいを理解し、子どもたちの連続的発達を考慮しながら、それぞれの立場で子どもたちに身につけさせたい力や学びの連続性についての相互理解を深め、小中学校教育への接続を円滑にすることにより、「中1ギャップ」を未然に防止し、子どもたちの学校生活の充実を図ることである。

(1) 小中学校共通の学校課題

小中学校ともに児童生徒数が少ないため、学習指導や生徒指導において教師の手が入りやすく、きめ細かな指導が可能である。しかし、反面、教師のきめ細かな指導のため、児童生徒が自ら考えたり、判断をしたり、表現する機会をうばい、それらの能力が十分身に付いていない

ことが大きな課題となっている。

また、児童生徒は小学校生活と中学校生活の間に多少のギャップを感じているようで、多くの生徒が1年生の最初の数ヶ月間中学校生活になじめない部分もみられる。

(2) 共通の学校課題の解決に向けて

小中学校共通の学校課題を解決するために、以下の3つの取り組みが必要と考えた。

○児童生徒の『主体性を確立する』こと

○児童生徒に『学ぶ楽しさ』『学ぶおもしろさ』を体感させる

○児童生徒の学びをつなぐことを大事にした質の高い学びを保証する『授業づくり』

これらの取り組みを実践するために、教職員の校種間を越えた「学び合い」と「共通実践」を目標に取り組んだ。

(3) 課題解決の方策と小中連携行事

① 「学び」の連続性を大切にしたつながりのある指導

- ・算数、英語の連携

中学校教職員が週1回小学校に行き、TTとして授業に参加する。

- ・家庭学習の習慣化に向けての共通指導

小学校においては家庭学習の習慣を身につけさせるため、家庭学習の手引きを作成し指導を行う。中学校においては自主学習ノートを活用し、家庭学習の習慣の定着を図る。

② 児童生徒の情報の共有

- ・生徒指導小中情報交換会の開催

合同行事の際、定期的に児童生徒の状況について職員間で情報交換を行うとともに、3月に新中学1年生に関する資料を準備し綿密な情報交換を行う。

③ 児童生徒が主体となる交流活動の実施

- ・小中合同あいさつ運動

生徒会役員が始業前に小学校を訪問し、児童会役員とともにあいさつ運動を行う。

- ・小中合同学校保健委員会の開催

小中保健委員が運営、発表を行う学校保健委員会を年2回開催する。

- ・小中合同体育の実施

大運動会に向けての練習を合同で実施する。

- ・秋畑地区大運動会の合同開催

生徒会、児童会役員を中心に運営を行い、地域の方々も参加する運動会を開催する。

- ・芽欠き作業（公園の下草かり）の合同開催

地域の公園の下草かりを児童会、生徒会を中心に実施する。

④ 保護者への情報発信と合同活動

- ・秋畑ふれあい文化交流会の開催

2年1回学習成果を発表するとともに地域の伝統芸能の発表会を行う。

- ・小中合同PTA研修会の開催

- ・PTA総会、運営委員会などの共同開催



小中合同あいさつ運動の様子



大運動会の小中合同の団別話し合い

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 武尊根小 国語



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 片品小 総合的な学習



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 片品中 理科



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 片品小 外国語活動



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 片品中 社会

I 平成22年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立平川小学校長 吉野 隆哉

1 平成22年度へき地学校教育

平成22年度の県内へき地学校は、休校中の2校を含め57校、児童生徒数4,401名、教職員数656名である。へき地学校の児童生徒の占める割合は県内全体の2.6%で、昨年と比べると校数は1校増、児童生徒数で147名の増、教職員は28名増員した。

へき地教育振興法施行規則の一部改正による級地の見直しが行われ、結果として県全体では校数が増え、児童生徒数・教職員数とも増加したが、地域によってはそれぞれ減少し、活動が危ぶまれるところも出てきた。

へき地教育研究連盟としては、へき地の学校の小規模の利点や、地域との密接な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身につける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

2 活動方針

(1) 研究主題 「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成」

(2) 活動方針

- ① 本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携・協力を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。
- ② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。
- ③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連携・親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

- ① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。
- ② へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教育に携わる教職員の資質向上を図る。
- ③ へき地教育研究大会を県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。
- ④ 県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

3 研究・研修の概要

(1) へき地教育ブロック別実践研究集会の開催

- Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽） 8月5日(木)：講演会、現地研修会
- Bブロック（吾妻） 8月5日(木)：全国へき地教育研究大会報告、講演会
- Cブロック（利根・沼田・渋川） 8月9日(月)：講演会、現地研修会

(2) 第59回全国へき地教育研究大会広島大会への参加 10月21日(木)～22日(金) 8名参加

(3) 第59回群馬県へき地教育研究大会 11月9日(火) 片品村開催 全体会：片品小学校
授業公開：武尊根小学校、片品小学校、片品中学校

(4) 広報「県へき連」第68号・69号の発行

(5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第59集発行

II 第59回 群馬県へき地教育研究大会

(1) 概要

- 趣 旨** へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。
- 大会テーマ** ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～
- 期 日** 平成22年11月9日(火)
- 会 場** 【開会行事・全体会・班別研究協議】 片品村立片品小学校 体育館等
【公開授業・授業研究会】 片品村立武尊根小学校(小学校 低学年)
片品村立片品小学校(小学校 中・高学年) 片品村立片品中学校(中学校)

5 日 程

9:30	10:00	10:30	10:50	12:00	13:15	13:40	14:45
受付	開会行事 (体育館)	全体会 (体育館) ・全へき連、 開プロ、 県へき連等 報告確認	班別研究協議 (各会場) ・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校	昼 食 憩 (体育館) 移 動	受付 (午後)	公開授業 ・武尊根小学校 ・片品小学校 ・片品中学校	授業研究会 ・小学校低学年 ・小学校中学年 ・小学校高学年 ・中学校(1・2年)

10:45

14:25(30)

16:15

6 班別研究協議

	司 会	提 案	記 録	世 話	指導助言	場 所
小学校 Ⅰ班	沼田：多那小中 校長 横坂 隆司	利根：大河原小 校長 青木美穂子	利根：藤原小中 校長 石北 直樹	渋川：南雲小 校長 高橋 誠	利根教育事務所 指導主事 中島 潔	国語少 人数
小学校 Ⅱ班	吾妻：孺恋東小 校長 地田 功一	吾妻：鎌原小 校長 山口 廣	吾妻：伊参小 校長 小林 高義	吾妻：高山小 校長 篠原三千雄	吾妻教育事務所 指導主事 小林 克典	支援セ ンター
中学校	高崎：宮沢小 校長 小林 勝	高崎：倉沢中 校長 原田 和之	高崎：倉沢川浦小 校長 松田 猛	高崎：倉沢中央小 校長 伊勢川 聰	西部教育事務所 指導主事 大倉 猛	被服室

7 公開授業

会 場	教科等	学年	単元・題材名	指導者	場 所
武尊根小学校 (低学年)	国 語 (交流学习)	低学年 (1・2年) 複式	1年 くじらぐも ----- 2年 お手紙	教諭 千明サト子 複式解消非常勤講師 千明 早紀	低学年教室
片品小学校 (中・高学年)	総合的な学習	4	片品を食べよう	教諭 小川勇之助	4年1組教室
	外国語活動	5	外来語を知ろう (英語ノート1 LESSON6)	教諭 友松 真樹	5年1組教室
片品中学校	理 科	1	水溶液の性質	教諭 野上 和栄	第1理科室
	社 会	2	世界と日本の人口	教諭 馬場 英行	2年2組教室

8 授業研究会

会 場	司会(世話)	記 録	指導助言	場 所	
武尊根小 (低学年)	利根：片品南小 校長 堤 義樹	利根：片品南小 教頭 小野 修一	西部教育事務所 指導主事 大倉 猛	給食室	
片品小 (中・高 学年)	総 合	利根：片品北小 校長 小林 仁史	中部教育事務所 指導主事 佐藤 和彦	4年1組 教 室	
	外国語 活動	渋川：南雲小 校長 高橋 誠	利根：大河原小 校長 青木美穂子	利根教育事務所 指導主事 小倉 弘之	5年1組 教 室
片品中	理 科	沼田：利根中 校長 川端 稔	利根：藤原小中 校長 石北 直樹	利根教育事務所 指導主事 登坂 一彦	図 書 室
	社 会	沼田：多那小中 校長 横坂 隆司	利根：幸知小 校長 原澤 和弥	吾妻教育事務所 指導主事 小林 克典	3 階 西学習室

〈2〉提案要旨

《小学校1班》

小規模校の特性を生かして「生きる力」を育む学校経営

～ 地域と共に歩む学校づくりを目指して ～

昭和村立大河原小学校長 青木 美穂子

1 学校の概要

本地区は、赤城山の西北麓に広がる広大な大地のうち、標高580~850m に位置する約2000ha の耕地を有する農村地域である。地形はおおむね起伏がなく、東から西へなだらかな傾斜をなし、戦時中はわずか120ha ほどの耕地の他は、ほとんど地区の共有林か国有林もしくは私有地の雑木林であった。したがって、現在の耕地のほとんどは戦後の開拓である。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

大型の機械を使い、広い土地で野菜やコンニャクをつくる大規模農家が多い大河原小学校区であるが、赤城高原は昔から水がなくて苦労して開墾してきた歴史がある。祖父母や父母が努力して開墾してきた赤城高原をふるさともつことを誇りに思い、たくましく未来を切り拓く力を身に付けた子どもを地域と共に育成したいと考え本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 地域の特性を生かす

○6年 総合的な学習の時間(50時間) 先人の思い(努力)を知り、未来につなげよう!

「開拓の歴史を調べることで、先人の苦労や努力について知り、地域のよさを再発見することから、地域を愛しその発展に尽くそうとする気持ちを養う」ことをねらいとし、自己課題を設定し、課題解決に取り組むこととする。

○3年 総合的な学習の時間(20時間) 地域の特産物を知ろう ～こんにゃく博士～

「こんにゃくいもの育て方、こんにゃくの加工の仕方を地元の方から学びながら、昭和村の農業に関心をもつ」ことをねらいとし、3年生の総合学習がスタートする。こんにゃくいもの植え付け体験では、地域のこんにゃく農家の植え付けを見学させていただいている。

② 豊かな環境を生かす

○緑の少年団活動

平成11年から「緑の少年団」に登録して活動を続けており、森の緑を増やすために緑化推進事業の補助金を活用して毎年「植樹」を行っている。植える木は、コナラ・ミズナラ・ツノハシバミ・クルミ・カエデなど、紅葉したり実がなったりする広葉樹を選んで植えている。

○愛鳥モデル校

平成4年度に初めて愛鳥モデル校の指定を受けて以来、4期連続して取り組んでいる。「日本野鳥の会」の方の指導を受けながら野鳥の観察を行ったり、学校行事「ふれあいの日」で親子で一緒につくった巣箱を森に設置したりしている。

③ 地域・保護者との連携を生かす ○さわやか声かけ運動(青少推) ○PTA奉仕作業

3 まとめと今後の課題

地域の特色を生かし、豊かな環境を活用し、地域・保護者と連携して、子どもたちにたくましく未来を切り拓く力を身に付けさせる取組を工夫してきた。子どもたちは学校が大好きで、大河原小学校の子どもであることを誇りに思っている。今後も先人の強靱な精神力を受け継ぎ、たくましく「生きる力」を育んでいけるよう努力していきたい。

《小学校 2 班》

ふるさとでの学びを充実させる学校経営の推進

～ 地域等の教育力を生かして ～

婦恋村立鎌原小学校長 山口 廣

1 学校の概要

本校は、婦恋村の南東に位置し、浅間山北面の裾野の一大高原にある山村の小規模校（男子46人、女子46人、計92人、各学年1学級、特別支援学級2学級、計8学級）である。鎌原地区の大部分の土地は、水はけのよい火山灰地が広がり、主として高原野菜の耕地として利用されている。歴史的に見ると、天明3年の浅間山の大噴火により全区民の85%もの尊い命が奪われた悲劇の村でもある。地域住民は、教育に対する関心が深く、学校に対しては極めて協力的である。

2 実践の概要

○稲の栽培（4学年）

みずほの会、鎌原公民館役員、ひまわり会の方々に指導をいただき、粃まき（もち米）、田植え、稲刈り、脱穀を体験する。田も地域の方から借りている。収穫したもち米は、収穫祭で全校児童が餅つきをし、関係した方々を招待して食べて収穫に感謝する。

○ジャガイモの栽培（4・5年生）

地域の農家の方を講師に、畑を借り、ジャガイモの種芋植え、秋には千代田区立お茶の水小学校の5年生と一緒にいもほりを体験する。掘ったジャガイモは、収穫祭で蒸かして全校児童と招待者で食べて収穫に感謝する。

○鎌原獅子舞の学習（3学年）

鎌原獅子舞保存会の方を講師に、7回指導を受け、鎌原獅子舞を学習する。その成果を収穫祭で披露する。

○鎌原観音堂に行つての地域学習（4学年）

鎌原観音堂に行き、観音堂奉仕会の方から天明3年から現在に至るまでの鎌原地区の様子を聞き学習する。

○鎌原区民大運動会（全校生徒）

本校の運動会は、鎌原区民大運動会という形で、区と協力して実施している。前日の準備には、本校保護者だけでなく、区の役員がたくさん来校して、子どもたちと協力して準備をする。運動会も児童と区民が楽しく競技できるように構成されている。

○その他

バイキング給食（6年生）、親子給食（全学年）、学年菜園に保護者が指導者で参加、読み聞かせの（地域の方々）、座繰り体験（蚕の学習のまとめ）、学校栄養士とのTT

3 まとめと今後の課題

地域の方々の生きた教育力が子どもたちに親しみと感動を与える。今回色々な形で地域の教育力を生かしているが、将来子どもたちにとって必ず思い出になると確信している。へき地学校の特徴は、小回りがきくことである。その特徴を生かし、ふるさとで学びを充実させる学校経営に今後も取り組んでいこうと思う。

今後の課題としては、様々な形で行っている活動を教育課程にきちんと位置付け、6年間を見通した活動にしていきたい。

《中学校班》

心豊かに自己実現をめざす生徒の育成

～地域とともに歩む学校づくり～

高崎市立倉渕中学校長 原田 和之

1 学校の概要

本校は、高崎市の北西に位置し、烏川の清流と榛名山麓の豊かな森林に囲まれた静かな山間にある。生徒数109名で4学級（普3、特支1）からなる。町内3つの小学校を卒業した生徒が集まるが、その小学校も平成23年度には統合され一つの小学校となる予定である。生徒は純朴で大変素直であり、明るくのびのびと学習や部活動など日々の学校生活を送っている。また、保護者や地域の方々も学校の教育活動に大変協力的である。

2 実践の概要

(1)倉渕公民館との連携

○ミヤマシジミの保護活動

倉渕公民館の事業である「ミヤマシジミ(環境省の絶滅危惧種)の保護活動」に、本校生徒も下草刈りや観察等に積極的に参加・協力している。

○道祖神の里めぐりへの協力

毎年11月初旬(日曜日)に開催される「道祖神の里めぐり」に、本校生徒の希望者約70名が解説ボランティアとして、訪れる約300名の方々に町内の道祖神の説明を行っている。

(2)森林体験活動

2年生全員が毎年11月中旬に、学校林において群馬県森林管理署の職員の方を講師に、林業体験を実施している。またこの活動には、PTAを中心とした支援ボランティアを募り、現場までの歩道の確保や仮設トイレの設置、救護係等に協力していただいている。

(3)地域朝礼

本校では、年間3回朝礼の時間に、地域の方の中からゲストを迎え「地域朝礼」を実施している。地域の方や本校にゆかりのある方に、約20分の講話をお願いしている。

(4)一人一楽器

生涯にわたって音楽に親しむ環境づくりを進めようと、全校生徒が一人一楽器を受け持ち、総合的な学習の時間等で吹奏楽の取り組みを全校で行っている。

(5)廃品回収(リサイクル)活動と無人購買

無人購買を運営するための資金作りとして始まった廃品回収が、40年たった今でも本校の伝統行事として、PTAや地域住民の協力のもと継続して行われている。

(6)部活動の活性化

現在本校は、7つの部活動がある。生徒数の減少のため、部活動を維持するのが精一杯の厳しい状況の中で、地域にいる方々に外部指導者として大いに協力していただいている。

3 まとめと今後の課題

高崎市と合併後さらに過疎化は進み、生徒数については数年後には大きく減少し、深刻な状態になることが予想される。そうした現状であるからこそ今後も、倉渕だからこそできる活動、ここでしかできない活動を地域とともに実践していきたい。幸いにして、地域の方々はこの本校の活動の趣旨を理解し、協力体制もできている。高校に進学しいろいろな中学校の生徒と対峙したとき、自分や母校や故郷について自信と誇りを持ち、堂々と胸を張ってアピールできるような生徒を育成していきたい。

〈3〉公開授業・授業研究会

①片品村立武尊根小学校

1 学校の概要

本校は、利根郡片品村にある4つの小学校のうちの1つである。片品村は、群馬県北東部に位置し、国道120号線沿いにあり、西に武尊山、北に尾瀬ヶ原を有し、東は日光に抜ける金精峠とつながっている。農業や観光にも力を入れ、山村ではあるが活気のある地域である。本校は、西面に武尊山を望める高台にある小規模校であり、現在の児童数は18名で通常複式学級3学級である。保護者や地域の協力を得て、特色ある豊かな教育活動を展開しながら心豊かな武尊根っ子の育成に努めている。

2 研究大会へ向けての学校の取組

本校では、平成22年度の校内研修の研修主題を「確かな読みの力を高める国語科の指導の工夫—言語活動の工夫を生かして—」として国語科を中心に、全教科において言語活動能力を高めることを主眼にして研修を進めてきた。本研究大会では、言語活動の工夫を基本においた上で、へき地校としての課題を明確にして提言できるように準備してきた。提言の視点としては、少人数指導における言語活動の工夫と学習過程の工夫である。国語科での言語活動として取り上げるのに適した活動は何か、学び合う場面設定が厳しい少人数での支援をどうするか等を試行錯誤しつつ本大会に臨んだ。

3 授業公開・授業研究会の様子（指導案も含む）

(1) 小学校低学年部会（国語科） 授業提案者 第1・2学年 千明サト子、千明 早紀
(第1学年児童男子1名、第2学年児童女子3名、計 4名)

1年国語科「こえにだしてよんで、聞いてもらおう」 教材：光村図書「くじらぐも」における授業を公開した。主な授業展開と研究協議は以下の通り。

授業の視点

2年生に音読を紹介し、音読についての意見交流を設定したことは、音読発表で場面の様子や登場人物の行動から想像を広げ、大きな声ではっきりと楽しく音読するために有効であったか。

<主な支援（抜粋）>

- ・挿絵や実際に空を見たり、話の中に子どもたちに同化して動作化したりして、場面の様子や子どもたちの気持ちをイメージしやすいようにする。
- ・くじらぐもに手紙を書いたり、音読発表会を行うという目的意識を持たせ、意欲的に取り組めるようにする。
- ・2年生と交流を持つ場面を持ち、音読の方法を更に高めようとする意欲を持たせる。
- ・場面ごとに登場人物の気持ちを読み取り、吹き出し等に表現させることで、理解と表現とを組み合わせて学習を展開していく。

<本時のねらい>

1年生：場面の様子や登場人物の行動から想像を広げ、大きな声ではっきりと、元気よく楽しんで読むことができる。

2年生：1年生の音読を聞き、自分の感想を発表することができる。



<本時の学習：学習活動と児童の様子の一部>

学習活動	指導上の留意点及び支援	児童の様子
1 前時の学習を振り返り本時のめあてをもつ。	・挿絵をもとに振り返りをして、音読のめあてをもたせる。	○静かに聞き、声に出してめあてを確かめることができた。
「くじらぐも」の音読プロになろう		
2 「1年生」くじらぐももの場面を4つに分けて1～4の場面をそれぞれ音読しながら2年生に助言してもらおう。 「2年生」音読を聞き、1～4の場面について簡単なメモを取り発表する。	・発表の態度、声の大きさや読む速さなどを意識させる。 ・登場人物の行動を想像して読むように助言する。 ・大事なところをメモに取れるように助言する。 ・背筋を伸ばす等、発表する人の方を見るなど正しい聞き方を意識させる。	「1年生」 ○きちんとした姿勢でそれぞれの場面を読む姿が見られた。 ○2年生に助言してもらったことをしっかりと受け止めて読み進める姿が見られた。 ○自己評価も大変よく読めたと自信を持って答えていた。 「2年生」 ○1年生の音読を与えられた視点をもって聞き、その都度メモをとる姿が見られた。 ○気づいたことを「よかったこと」「気をつけること」に分けてしっかり発表していた。
3 「1年生」助言されたことを意識して音読の練習をする。 「2年生」2年生の読むところを練習する。	主な2年生の助言 ・気持を込めて読んでいた。 ・速さや声の大きさがちょうどよかった。 ・読点に気をつけて間をとるといいと思う。 ・気持をもっと込めるとよい	○1年生は、最初の音読と比べ、自信を持って堂々と発表することができていた。2年生もしっかりした発表ができていた。
4 「1年生」音読の発表をする。 「2年生」音読に協力をする	・音読に大切なことを分かりやすくまとめ、説明して自信を持って発表できるようにする。	

<授業研究会の協議の概要>

音読の場の環境整備がよくできていた。挿絵の掲示により学びの場面や流れが子どもたちに伝わっていた。子ども達の間関係がよく、学び合いの約束や言語環境が整っていた。

少人数指導においては、思考の広がりや深まりなどに課題があるが、今回の学習では、他学年（2年生）との交流という形式をとったために、自信をもって音読できるようになるなど子どもが変わることにつながった。また、少人数であるがゆえに、綿密な実態把握が可能であり、個に応じた適切な支援ができたことは成果であった。学習の場に、「音読のプロになろう」という子どもにとっての分かりやすいねらいがあり、思考・判断・表現力を高める場が設定されていた。

交流場面において、1年生と2年生との意見が混じり合う誘導の工夫があるとよかった。理由を明らかにして自分の意見を持ち発表すること、そして、その理由について友達同士で吟味する場があると意見の交流が深まることになる。異学年交流の場を持つ際には、それぞれの学年のねらいを達成できるように綿密な計画に基づいて行うことが必要である。



②片品村立片品小学校

1 学校の概要

本校は、標高813メートル、JR上越線沼田駅からおよそ60分の位置にあり、国道120号線沿線にある。学区が広範囲なため、バスや自家用車での通学児童が多いのも特徴である。村内には尾瀬や丸沼、7つのスキー場があり、自然を利用した観光・リゾート産業が盛んで、学区内にもゴルフ場、3つのスキー場がある。現在の児童数は175名で、通常学級6、特別支援学級1、合計7学級である。

2 研究大会に向けての学校の取組

本校では、校内研修の研究主題を「自分の思いや考えを表現できる子どもの育成」とし、国語科を中心に学習活動の工夫を通して研修している。また、片品村より特色ある学校づくりの一環として外国語活動と食育の指定を受け研究を進めてきた。この取組の一つとして、本研究大会において多くの先生方に授業を参観していただくことでご指導を頂き、より一層研究が深まればと考えて授業を公開することとした。

3 授業公開・授業研究の様子（指導案も含む）

(1) 総合的な学習の時間（4年） 単元名「片品を食べよう」 指導者 小川 勇之助

① 本時のねらい 学校畑で野菜を育ててきた過程をふまえ、片品村の野菜や調理品、栄養について調べたことの発表を聞き、さらに給食の献立について意見交換をすることで、本発表に向け「片品を食べる」という意味や大切さについて考えることができる。

② 展開

過程	学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点
導 入	1. 本時のめあてをつかむ ◎4～10月までの活動を振り返り、各月の発表パネルを見て、「どうやって野菜を育てることができたのか？」前時の学習を振り返る。	5 分	・野菜君に色々なコメントカードを付け足しながら成長したことを振り返らせる。 ・野菜が育ってきた過程や収穫祭での活動を写真やパネルを見ながら振り返ることができるようにする。 (野菜の写真や観察記録、野菜カレンダーをもとに)
発 表	2. 中間発表会 ◎「片品を食べよう」の意味について考えながら発表を聞く。 ⑤～⑥の発表 ⑤片品村の調理品 ⑥片品村の野菜と栄養	10 分	・ワークシートを用いて、発表ごとに自分で気がついたことなどを考えさせる。 ・学校栄養士にコメントをお願いし、専門的な立場から野菜に関する栄養バランスの知識や体に対する野菜の大切さについて説明してもらう。(偏食や欠食等) ・グループ×3分単位(助言や説明を入れて)で発表を進めさせる。 ・自分達にとって片品の野菜を確認できるよう助言していく。
思 考	3. 意見交換会 ◎2つの班の発表を聞いて、気づいたことを発表する。	20 分	・発表の仕方ではなく、発表内容について気づいたことを発表するように助言する。 ・発表班への細かいアドバイスについては、ワークシート

<p>表現</p>	<p>C：「片品村では地域の特徴を生かした料理がある。」</p> <p>C：「野菜には色々な栄養がある。」</p> <p>C：「給食にも片品の野菜が使われている。」</p> <p><u>・献立表や写真を見て何か気づくことはありますか？</u></p> <p>◎「片品を食べる」ことの良さについて、学校栄養士のアドバイスを聞く。</p> <p>◎好き嫌いをせず「片品を食べる」ことの大切さについても気づけるように、本発表に向けて見直しをしていくことを捉える。</p>		<p>を渡すことにより知らせることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食のことについて気付かないようであれば、教師の方で、発表の中に出てきたことを補足説明する。 片品村の野菜で作られたおかずは、新鮮であるに気づかせる。 学校栄養士が4月に実施した食生活アンケートや保健委員会が実施した残食調査（写真）やグラフを提示する。 村の特産である「まいたけ」が残ってしまう現実にも目を向け、片品の野菜を知らずに食べ残してしまうことにも気づかせる。 中間発表会もふまえ、給食やお家での野菜の食べ残しを自分達で改善していくことの大切さに気づかせる。 本発表に向け、「片品を食べよう」の意味や大切さについても伝わるように見直しをしていくと良いことを助言する。
<p>十分満足◆「片品を食べよう」の意味を理解し、本発表に向けて野菜を好き嫌いなく食べることの大切さについてを加えての改善を考えることができたか。</p> <p>（発言、ワークシート）</p> <p>おおむね満足◆「片品を食べよう」の意味を考え、本発表に向けての改善を考えることができたか。（発言、ワークシート）</p>			
<p>まとめ</p>	<p>4. 学習のまとめをする。</p> <p>◎前時と今日の授業で学んだ「片品を食べよう」の意味をまとめ、本発表に向けての学習意欲を持つ。</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使って学習のまとめができるようになる。 学校畑で育ててきた野菜は、片品村特産物の一部を育てていたこと、村の野菜を使って調理している給食は、片品村の伝統ある調理品として作られているものがあること、村の調理品は栄養バランスにも優れていることを確認させる。 今回、意見交換したことから「片品を食べる」ことをよく考えて生活していくことの大切さについてまとめていく。 中間発表で気づいた点をふまえ、本発表に向け内容をよりよいものへ改善していくよう助言する。

③ 授業研究会等の様子



授業者より、片品村民として大人になった時に片品の野菜の良さを伝えてもらいたいという願いをもって授業を構成したという説明があった。その後の協議では、自分の考えを表明するための、コミュニケーションカードが有効であったという意見があった。

指導助言の中で、佐藤指導主事より「人」と「もの」をリンクさせた実践であり、五感を通して調べることができた。今後も子どもに応じて、柔軟に授業を進めることが大切であるというアドバイスをいただいた。

(1) 外国語活動 (5年) 単元名「片品を食べよう」 指導者 HRT 友松真樹
ALT Brian Mcgrath

① 本時のねらい 食べ物の外来語と英語の発音のちがいに気付き、英語の発音やほしいものを尋ねる表現に慣れ親しむ。

② 展開

過程 (分)	児童の活動	HRTの活動	ALTの活動	指導上の留意点
挨拶 (5)	・挨拶をする。 Hello, how are you ? Fine./Hungry./Cold.~	・全体に挨拶をする。 ・教室内でたくさんの友だちとあいさつをさせ、じゃんけんで3回勝ったらHRTに報告させる。		・ and you? や、I'm fine,too.などの表現を紹介する。
復習 (8)	【Let's Play2】 ・英語ノートp.36・37を開け、「何が欲しい?ゲーム」をする。	・「何が好き?ゲーム」をすることを告げる。英語ノートp36・37を開け、ゲームのやり方を実演して示す。 ①HRTが好きなもの、ALTが好きなものをそれぞれ二つずつ予想してイラストに④印⑤印を付ける。 ②全員でHRTとALTに What do you like? と尋ねる。 ③自分の予想が当たっていたら、○印を×印で消す。 ④○印がなくなったら、” Finished !” と言って立つ。 ----- ・児童といっしょに What do you like? と尋ねる。		・好きなものを尋ねるときの表現 What do you like? を用いて、HRTとALTでデモンストレーションをした後、全員でALTに尋ねさせる。 ・児童の様子を見て、二度目は☆印、三度目は花丸などと印を変えてやりとりに慣れ親しませる。
展開 (7)	【Let's listen 1】 ・英語ノートp.38を開け、やり方を知る。	【Let's listen】をすることを告げ、やり方を説明する。 ----- ・国旗などをヒント	・活動のやり方を説明する。 ・上から順番にどこ	◆児童にこの活動を通して、身の回りにある外来語のものは英語だ

		に予想させる。 ・ CDで聞かせ、左の子供と右の食べものを線で結ばせる。 ・ 国旗や食べ物写真カードを見せながら注目させる。	の国の子供かを予想させる。 ・ 答えの確認の時に、英語の発音を聞かせ、繰り返し練習させる。	けでなく様々な言語であることに気付かせる。
展開 (20)	【Activity】 ・ 友達にWhat do you want ?と尋ね、欲しい食べ物を答える。	・ 英語ノートp.38の食べ物カードを使い、欲しいものを尋ねるときのくだけた表現What do you want ?で友だちに尋ねたり答えたりする活動をする。 ・ 8種類の食べ物カードのうち、ランダムに3枚ずつのカードを配り、友達とWhat do you want ?と尋ね合い、相手の欲しいカードを持っていたら渡し、同じカードを3枚そろえた人が勝ちというゲームをする。	・ H R TとA L Tでデモンストレーションをして見せる。 ・ 3枚そろえるためにいろいろな相手とやりとりするように仕掛ける。	
		・ Brian,what do you want ? ・ Sushi. ・ 早くそろえた児童に感想やコツなどを発表させ、みんなで拍手をして賞賛する。	・ Uh...Sukiyaki. ・ Sensei,What do you want ? ・ 3枚そろった児童とハイタッチをし、4～5名がそろった頃、活動を終了させる。	・ どんなどころに違いがあったかよく注意して聞かせ、気付いたことを発表させる。
挨拶 (5)	・ 振り返りをする。 ・ 挨拶をする。	・ 児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを伝える。 ・ 挨拶をする。	・ 挨拶をする。	・ 次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかった点を評価する。 ・ 「振り返りカード」に記入させる。

③ 授業研究会の様子



授業者より、昨年度は文科省指定の英語教育推進校として全クラスで取り組み、今年度は5・6年の外国語活動として取り組んでいるという説明があった。その後の協議では、ALTと担任との掛け合いがよく、子どもたちが楽しんで授業に取り組んでいたという意見があった。指導講評の中では、繰り返し習った英語を使う場面を設けることで、定着を図るというより楽しんで慣れさせることが大切であるというアドバイスをいただいた。

③片品村立片品中学校

1 学校の概要

本校は、尾瀬国立公園や日光白根、武尊の山々に囲まれた利根郡の北東部、標高 850 m に位置する生徒数 159 名、学級数 7 学級（特別支援学級 1 学級を含む）の学校である。昭和 50 年 10 月に現在地に移転した。平成 15 年度より、「群馬県連携型中高一貫教育」の実施校として、尾瀬高等学校、利根中学校、片品中学校の 3 校が指定を受け、以来、中学校・高等学校が連携し、指導方法や教育課程の編成等の実践を通し、学校運営の改善・充実を行っている。生徒は、素直で、明るく、元気なあいさつができる。部活動にも一生懸命取り組み、各大会で活躍している。

2 研究大会に向けての取組

本校では、「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」を研修主題、「豊かな心を育み、確かな学力が身に付く授業展開の工夫を通して」を副主題として、一人一授業研究を行っている。道徳や教科指導における授業展開の工夫を通して、豊かな心の育成や確かな学力を身につけさせることを校内研修のねらいとして取り組んでいる。今回の理科、社会の授業は、「主体的に学ぶ生徒の育成」や「確かな学力の定着」に視点をあてた授業展開の工夫の事例として行ったものである。

3 公開授業の概要

(1) 理科（1年）

- ① ねらい 水溶液から溶質を取り出す方法を考え、結晶として取り出すことができる。
- ② 準備 硝酸カリウム、食塩、ビーカー、試験管、試験管立て、薬包紙、薬さじ、ガラス棒、温度計、スタンド、スライドガラス、ろ紙、電子天秤、ガスバーナー、メスシリンダー、ホットプレート、双眼実体顕微鏡、実験計画書
- ③ 展開

学習活動	時間	学習への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援	評価項目【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
1.本時の学習内容を知る。	2	○再結晶によって作ったみょうばんの飾りを見せ、本時は、水に溶けた物質から結晶を取り出す方法を考えることを知らせる。	
2.水に溶けた物質を取り出す方法を考える。 ○自分の考えをもつ。 ○班で考えをまとめる。 ○班の考えをもとに実験方法を決める。	20	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「水溶液から溶質を取り出すにはどのような方法がありますか」</div> ○自分の考えを実験計画書に記録させる。 ★意見のもてない生徒には、小5で既習の食塩、ホウ酸のろ過の実験を思い出させる。 ☆実験方法が考えられた生徒は、どのような装置を作ればよいか考えさせる。 ○全員が目的意識をもてるよう、班別に話し合い、一人一人に自分の考えを発言させる。 ○班で話し合った結果を発表させる。 ○教師は、各班の共通点を取り上げ、実験方法としてまとめる。	

<p>3.水溶液から結晶を取り出す実験を行い、水に溶けた物質が析出するようすを記録する。</p> <p><実験方法></p> <p>①食塩、硝酸カリウムを計量し、試験管に入れる。</p> <p>②水を入れる</p> <p>③ガスバーナーで水溶液を 50℃まで加熱する。</p> <p>④流水で冷やして、試験管の中のを観察する。</p> <p>⑤析出した物質をスケッチし、双眼実体顕微鏡で観察する。</p>	<p>23</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「自分たちの班で考えた方法を使って、結晶を取り出してみよう」</p> </div> <p>○比較のために、食塩と硝酸カリウムを用いること、それぞれについて同じ操作をすることを説明する。</p> <p>○食塩、硝酸カリウムを各 3 g 計量して 5 cm³の水(約 15℃)に入れ、試験官を振りながら溶かすと、ほぼ同じくらい溶け残りがあることを試験管の底に着目しながら確認させる。</p> <p>○やけどに注意しながら、ガスバーナーで水温を 50℃まで加熱する。</p> <p>○食塩と硝酸カリウムのどちらが多く溶けたか、溶け方のちがいに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食塩はほとんど変わらず溶け残りがある」 ・「硝酸カリウムは全て溶けた」 <p>★実験操作が正確にできているかを確認し、できない生徒には個別支援を行う。</p> <p>○流水で水温を下げ、溶質が結晶として析出するようすを注意深く観察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食塩は最初と同じだけ溶け残っていた」 ・「硝酸カリウムは結晶ができていた」 <p>○試験管の中に析出した硝酸カリウムの色や形をスケッチさせる。</p> <p>○水溶液をガラス棒を使って一滴ずつ取り、スライドガラスにのせてホットプレートで乾燥させ、乾いたら双眼実体顕微鏡で観察させる。</p> <p>○食塩も観察させるが、結晶は短時間ではできないので、教師が予め準備しておく。</p> <p>★物質が析出するようすをじっくり観察させ、物質が結晶で析出することを身に付けさせる。</p>	<p>○自分たちの班で考えた方法を使って、水溶液から溶質を結晶として取り出すことができる。</p> <p>◎自分たちの班で考えた方法を使って、結晶が出てくる条件に着目しながら、水溶液から溶質を結晶として取り出すことができる。</p> <p>【技能・表現】 (観察、実験計画書)</p>
<p>4. 本時のまとめをする。</p>	<p>5</p> <p>○結果については数名の生徒に発表させるにとどめ、水溶液から物質が出てくる時の条件については次時に扱うこと、そのために家庭学習でまとめてくることを指示する。</p>	



④ 授業研究会の協議内容

野上教諭から、生徒が興味関心をもち、主体的に取り組めるように、先行経験をもとにした班の話し合い活動と実験が中心になる授業であるとの説明があった。その後の研究協議では、導入のミョウバンの結晶は生徒が興味をもった、実験器具の基本的な操作方法を確認しておく、生徒の発言を通して既習の単語を確認していて良かったなどの感想をいただいた。また、学校全体で話し合う力の向上についての取組が話題になった。指導助言者である登坂指導主事からは、「生徒一人一人にきちんと考えを持たせ、話し合い活動をしたのは良かった。」「生徒が主体的に、既習事項を基に取り組む授業展開であった。」等のご指導をいただいた。

(2) 社会(2年)

- ① 本時のねらい 事例地域(滋賀県南東部)に人口移動が多い原因を考える。
 ② 準備 教科書、地図帳、ワークシート、事例地域の資料、付箋紙
 ③ 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援・留意点 ★努力を要する生徒への支援 ☆十分満足できる生徒への支援	評価項目 【観点】(方法) ○おおむね満足 ◎十分満足
<p>1 「マザーレーク」とは何かを考え、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母なる湖・琵琶湖のこと・滋賀県のニックネーム </div>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーレークは住みやすい!? (本時の学習課題)を黒板に提示し、「マザーレーク」とは何かを問う。 ・少し間をとって、列指名をする。 ・「マザーレーク」が琵琶湖あるいは滋賀県のことを指すことを告げる。 	
<p>2 新聞記事の中で滋賀県に該当する部分に下線を引き、発表する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、掲載されている新聞記事を読んで、滋賀県に該当する部分を発表させる。 ・滋賀県は転入超過率全国トップであり、転入してきた人は20～30歳代の若者が半分を占めていることを確認する。 	
<p>3 地図帳を開けて「人口増加数ベスト5・人口増加率ベスト5」の町を丸で囲む。</p> <p>4 丸で囲んだこれらの町に共通することは何かを付箋紙に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部滋賀県の南部にある。 ・滋賀県の南部で琵琶湖に近いところにある。 ・高速道路やJRですぐに大阪や神戸に行ける。 ・阪神工業地帯が内陸部に伸びているところ。 ・広い平地になっている。 </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1「人口増加数ベスト5・人口増加率ベスト5」の町を地図帳(帝国書院 P.86)で確認させる。 ・地図から分かる共通点に着目するよう助言する。 ・付箋紙に書いたことを次の学習活動に使用するので、ワークシートに貼っておくよう指示する。 ・学級全体には、滋賀県南東部に転入者が集中していることのみおさえておく。 ★これらの町が滋賀県のどのあたりに集まっているか、京都や大阪などの大都市圏とつながっていることを地図上で確認させる。 	
<p>5 資料2「統計で見る滋賀」を見て、マザーレークに住むことでどんなよいことがあるのかを考え、</p>	34	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2「統計で見る滋賀」と学習活動4で書いた付箋紙を基に、マザーレークに住むことでどんなよ 	○資料を基に、滋賀県南東部に人口移動が多い

<p>付箋紙に書く。</p> <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <p>①滋賀県に転入者が多い原因を1つも考えられない。</p> <p>②滋賀県に転入者が多い原因を1つ程度考え、記述している。</p> <p>③滋賀県に転入者が多い原因を複数考え、記述している。</p> <p>6 各自が見つけた原因を班で話し合い、ランク付けをする。</p> <p>7 班ごとに話し合った結果を全体に発表する。</p>	<p>いことがあるのかをできるだけ多く書くよう指示する。</p> <p>★自分だったらどのような場所に住みたいか、将来のことも考えさせながら統計資料の一つ一つの項目に着目させる。</p> <p>☆できるだけ多くの原因を見つけ、その中でも人口移動の主な原因となるものを考える（ランクづけ）よう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永住するにはどのような場所が一番ふさわしいのか、それに該当するものを選択するよう助言する。 ・付箋紙は保管しておき、次時以降に活用することを告げる。 	<p>原因を考察している。</p> <p>◎資料を基に、滋賀県南東部に人口移動が多い原因を多面的に考察している。</p> <p>【思考・判断】 (発言、ワークシート)</p>
--	---	--

☆ 学習活動5で生徒に期待する考え (=本時のねらい)

○琵琶湖が近くにあって遊べるし、子どもを育てるのによい環境が残されている。○滋賀県は琵琶湖もあるし、緑も多くて自然がたくさんある。○滋賀県の南東部は交通の便のよいところで、大阪や京都に楽に行けるので便利。○持ち家比率が高いので、自分の家を持ちやすい。たぶん、土地が安い。○土地が安ければ、若い夫婦でも家が建てられる。○平均気温が15℃なので、気候も寒くもなく暑くもない。○婚姻率が全国9位で離婚率が全国36位だから、家族仲良く暮らしていけるところ。○県民所得は全国4位だから、豊かな県だ。○交通事故が少ないので、安心して暮らせる。○刑法認知件数が少ないので、治安がよく、安心して暮らせる。○公害苦情件数が少ないので、環境がいいといえる。○地図を見ると平地なので、家などの建物を建てやすい。…など。

④ 授業研究会の協議内容

馬場教諭から「事例地域に人口移動が多い原因を考えることによって、永住するにはどのような場所がふさわしいのかを考えること」



を願って今日の授業を行ったとする授業説明があった。その後の協議では、生徒達は良い人間関係の中でなごやかに協議を行っていた。付箋紙を有効に使ってポイントを絞り、前後の時間ともつながりをもった授業だった。ランキング等で生徒の意欲を刺激し活発に意見を交換していた。などの感想をいただいた。指導助言者である小林指導主事からは「個人で考えてからグループで考え、全体で考える流れがあると良い」「与えられた資料から最後は自分の言葉で話せるようになると良い」などのご指導をいただいた。

Ⅲ へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Aブロック

- 1 趣 旨 Aブロックのへき地学校に勤務する教職員が集まり、地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質の向上に役立てる。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟
- 3 共 催 群馬県教育委員会
- 4 後 援 群馬県へき地教育振興会 甘楽町教育委員会
- 5 期 日 平成22年8月5日（木）
- 6 会 場 図書館 ら・ら・かんら研修室
現地研修会場 甘楽町 国指定文化財 名勝「楽山園」
富岡市 群馬県立自然史博物館

7 参加者 Aブロックのへき地学校教職員 110名

8 日 程

- (1) 受 付 8:45 ～ 9:00
- (2) 開会行事 9:00 ～ 9:15
- 開会のことば
 - あいさつ 県へき連副理事長 井上 優 様
 - 来賓あいさつ 甘楽町教育委員会教育長 柴山 豊 様
 - 閉会のことば
- (3) 全体会（講話） 9:15 ～ 10:15
- 講師紹介
 - 演 題 「甘楽町と織田氏」
 - 講 師 小安 和順 様（甘楽町教育委員会教育課文化財保護係 補佐）
 - 謝 辞
- (4) 諸連絡・会場移動 10:15 ～ 10:40
- (5) 現地研修会 10:40 ～ 11:40
- 甘楽町 国指定文化財 名勝「楽山園」
 - 富岡市 群馬県立自然史博物館



9 講話の概要

講師の小安様より以下の内容のお話をいただいた。

- ①明治～甘楽町の成立
- ②小幡藩の成立まで
織田氏系図、雄川堰（町重要文化財）、武家屋敷地区、町屋地区、藩主の交代
- ③楽山園（庭園）の概要と特徴及び鑑賞の視点
- ④小幡藩の石高・領地について

10 まとめ

「楽山園」では、前半の講話を受け、解説員さんの解説を聞きながら、往時の思いに浸ることができた。また、自然史博物館を利用する折の学習計画等の情報交換を行うことができ有意義な研修が実施できた。

（文責 甘楽町立第三中学校長 井上 優）



〈2〉 Bブロック

- 1 趣 旨 地域の実態に即したへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質の向上を図る。
- 2 主 催 群馬県へき地教育研究連盟 吾妻郡へき地教育研究会
吾妻郡東部・西部へき地教育センター
- 3 後 援 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 期 日 平成22年8月5日(木)
- 5 会 場 吾妻郡生涯学習センター「ツインプラザ」 交流ホール
- 6 参加者 吾妻郡へき地学校教職員他 150名
- 7 日 程
 - (1) 受 付 1階ホール前 13:30～13:50
 - (2) 開会行事 14:00～14:10
 - 開会の言葉
 - へき地教師の歌斉唱
 - あいさつ 吾妻郡へき地教育研究会 会長 小野塚 則幸
 - 来賓祝辞 吾妻教育事務所 所長 小池 明夫 様
嬭 恋 村 教 育 長 萩原 良一 様
 - (3) 参加報告 14:10～14:30
平成21年度全国へき地教育研究大会鹿児島大会 参加報告
草津町立草津小学校 干川 和規 教諭
～ 休 憩 ～
 - (4) 講演会 14:40～16:10
 - 演 題 「時事放談と落語」
 - 講 師 落 語 家 落語立川流真打 立川 談之助 師匠
 - (5) 閉 会 16:20

8 まとめ

全国へき地教育研究大会の報告では、複式学級の授業で起こりやすい「空白の時間」や「学習の停滞」を作らないための指導法としての「あたり」や「ずらし」についての話があった。そこでは、学校全体として教師が緻密な計画性と学習内容を精査し細分化できる力量を身に付けていることが大切であることを改めて感じた。今回は複式学級の教育活動の取組についての発表であったが、単学級での「子どもの能力に応じた個別指導や少人数指導」にも生かしていきたい貴重な報告であった。

一方、講演を終えて私たち教職員が感じたところは、落語と授業の構成が似ていることである。導入が「まくら」、展開が「本題」、終末が「おち」のステップである。まくらは時候の話題や時事ネタ、小咄などを取り入れ、観客をある程度ほぐしながら心をつかむ。そして本題に入り、おちへと進む。今回披露された落語は有名な古典落語「子ぼめ」であった。師匠は、はじまりから80分間をよどみなくずっと話し続け、飽きさせることなく我々を引きつけていた。まさに「お見事」の一言に尽きる。短い時間であったが、一流の落語、一流の話術・話芸を堪能した。心底大声で笑うことが少ない昨今、今回の笑いは明日からの仕事への意欲につながる講演会であった。



〈3〉Cブロック

- 1 趣 旨** 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員が、へき地の特性を生かす教育について研究するとともに、吹割溪・吹割瀑などの自然を現地研修し、教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催** 群馬県へき地教育研究連盟 利根・沼田・渋川へき地教育研究会
利根郡へき地教育センター
- 3 後 援** 群馬県教育委員会 群馬県へき地教育振興会
- 4 期 日** 平成22年8月9日（月）
- 5 会 場** 沼田市立利根中学校・吹割瀑周辺
- 6 参加者** 利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員 27名

7 日 程

- (1) 受付 8：20～8：40
- (2) 開会行事 8：40（利根中学校2F多目的スペース）
- ① 開会
へき地教師の歌「太陽となろう」
- ② あいさつ
- ・群馬県へき地教育研究連盟副理事長 原澤 和弥
 - ・利根郡へき地教育センター所長 関谷 丈次 様
 - ・沼田市教育委員会教育長 津久井 勲 様
- ③ 日程説明
- ④ 閉会
- (3) 講演 9：00～9：30
- ・講師紹介 利根中学校長 川端 稔
 - ・講演 元昭和村教育委員会教育長 角田 侃男 様
演題「吹割瀑周辺の自然」
- (4) 休憩・移動 9：30～10：00
- (5) 現地研修 10：00～11：30
- ・吹割溪・吹割瀑
- (6) 閉会行事 11：30～11：40
- (7) 解散

8 まとめ

講演では、講師の角田先生の各時代（教員時代、管理職時代、教育長時代）での自然等との関わりやエピソードを中心に、ユーモアを交えてお話しいただいた。また、現地研修では、吹き割れの滝周辺の遊歩道を歩きながら、滝のできかたや地質の様子、植物の様子などについて説明していただいた。参加者は、酷暑を忘れさせてくれる涼を満喫しながら、充実したひとときを過ごすことができた。

（文責：沼田市立利根中学校長 川端 稔）

Ⅳ 第59回全国へき地教育研究大会（広島大会）

〈1〉 概要報告

沼田市立平川小学校長 吉野 隆哉

第59回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、広島県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成22年10月21日(木)～22日(金)の2日間にわたって広島県で開催された。

1日目は、広島市の広島国際会議場を会場に、全国のへき地・小規模校から900名を越える教職員が参加し盛大に開催された。本県からは、校長・教諭・県教委指導主事の8名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国第7次研究推進計画研究課題別に6つの分散会が開かれた。2日目は、9つの小中学校で公開授業が行われ、その後7つの分科会場で各地区の研究発表や熱心な協議が行われた。

第1日（10月21日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、主催者として、文部科学省初等中等教育局主任視学官、広島大会長・広島県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の挨拶があり、広島県知事から来賓代表の祝辞をいただいた。

基調報告では、まず全国へき地教育研究連盟研究部長から、第7次長期5か年研究推進計画(平成21～25年)の概要説明があり、続いて広島大会研究部長から、広島大会主題「ふるさと広島での学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」、大会スローガン「伝えよう 広めよう ふるさと広島 確かな学び 豊かなことば」をもとにした広島県の取組に関する報告がなされた。

講演は、「新教育課程における授業と評価の在り方」と題して、白梅学園大学教授 無藤隆先生により、大きく2点についての話があった。一つは「新学習指導要領における教育課程と授業とは」で、2点目は、「新しい学習評価の考え方」である。前者については、「授業は常に教科固有の学力と教科横断の学力の組み合わせであること」「教科教育等の充実を確かな学びへと向けること」「確かな習得の指導を進めること」「活用場面を設け、子どもが考えるように仕向け、確かな活用が図れるようにすること」「豊かな探究の推進と総合的な学習の時間の強化を図ること」「言語力の育成を図ること」などについての話があった。2点目の「新しい学習評価の考え方」については、「指導と評価を一体化させること」「学力3要素を4観点の観点別で評価すること」「評価規準と評価方法について」などのご指導をいただいた。

講演終了後、次回開催地である、北海道へき地・複式教育研究連盟委員長より挨拶があり、北海道大会研究部長が、分科会会場の紹介を行った。最後に広島大会事務局長より北海道へき地・複式教育研究連盟事務局長へ大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

アトラクションは、三原市大草神楽子ども研究クラブの出演により、「御神祇(ごじんぎ)〔四人舞(しじんまい)・悪魔祓(はらい)〕と能神楽〔八重垣(やえがき)〕」が披露された。

午後は、全国第7次研究推進計画研究課題別に課題1から課題6までの6つの分散会に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、中国・四国ブロック1校)の発表をもとに活発な研究協議が行われた。

第2日（10月22日）「授業公開・分科会」

2日目の前半は、広島県下の9小中学校(A広島市立湯来(ゆき)東小学校、B1北広島町立雄鹿原(おがはら)小学校、B2北広島町立芸北(げいほく)小学校、B3北広島町立芸北中学校、C三原市立大草(おおぐさ)小学校、D尾道市立百島(ももしま)小学校、E神石高原(じんせきこうげん)町立柚木(ゆき)小学校、F三次(みよし)市立作木(さくぎ)小学校、G庄原市立口和(くちわ)小学校)で、それぞれ3～6授業、計43の授業が公開され、その後A～Gの7分科会で、開会式、各学校(地域)の研究発表及び研究協議、閉会式が行われた。

〈2〉 分科会報告

A分科会

伝え合う力の育成をめざす学習指導の工夫

～書く活動をもとにした話し合いを中心に～

みなかみ町立幸知小学校長 原澤 和弥

1 会場校 広島県広島市立湯来東小学校（児童数35名 4学級 職員数10名）

2 地域・学校の概要

湯来町は、広島市の北西部山間に位置し、山々の間を縫うように水内川が流れ、その川に沿って家々が散在している。町内には、湯来温泉、湯の山温泉の二つの温泉地がある。広島の奥座敷と呼ばれている。特産品は、こんにゃく、牛乳をはじめ、水内川で捕れる鮎が有名である。平成17年4月に広島市と合併し、広島市佐伯区に編入された。町内には小学校3校、中学校2校、高等学校1校がある。

湯来東小学校は、全校35名の小規模校で、1、2年は単式学級で、3・4年、5・6年が複式学級になっている。完全複式で一人の担任が二学年同時の授業を指導している。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- 指導と評価を一体化した学習指導の推進
 - ・国語科の各単元の指導事項と評価規準を明確にした学習指導
- 伝え合う力を育成する指導方法の工夫改善
 - ・「書く活動と話し合い」を中心に、伝え合う力を意識した授業改善
 - ・場に応じた適切な言葉を使うことのできる言語環境づくり
- 自主的・協同的な学習を実現するための指導の工夫改善
 - ・複式授業の研究

(2) 公開授業

公開授業Ⅰ

1年	国語	おはなしだいすき	「サラダでげんき」
2年	国語	どうぶつのひみつをしらべよう	「ビーバーの大工事」
3年	国語	世界の民話を読もう	「木かげにごろり」
4年	国語	愛の心をえがいた物語を読もう	「世界一美しいぼくの村」
5年	国語	人間の生き方をえがいた作品を読もう	「マザー・テレサ」
6年	国語	作家と作品をかかわらせて読もう	「宮沢賢治」

公開授業Ⅱ

全学年 生活科・総合的な学習の時間 「伝えよう！わたしたちの湯来町を」

4 所感

授業では、どの子ども達も積極的に、生き生きとした本読みや発表を行っていた。本を読むときは、どの学年も本を立てて、背筋を伸ばしてはっきりとした口調で、堂々としている姿が印象的であった。3年生以上は、教師がそばにいらなくても自分たちで授業を進めており、自学自習の態勢がよくできていた。開会式で全国へき地教育連盟会長が「へき地教育は教育の原点である。」とおっしゃったが、湯来東小学校の実践をとおして、あらためてその言葉を実感した。

帰りには二階ベランダから「ありがとうございました」という元気な声が、あちらからもこちらからも聞こえてきた。

B 1 分科会

芸北の担い手となる、確かな学力と豊かな心を身につけた子どもの育成

～国際社会・実社会で生きる論理的思考力とコミュニケーション能力の育成（保小中高一貫教育）～

下仁田町立西牧小学校長 並木 伸一

1 会場校 広島県北広島町立雄鹿原小学校（児童数 42 名 単・複式各 2・特支 1）他 2 小中学校

2 地域・学校の概要

北広島町芸北地域は、広島県の北西部、中国山地の背稜部に位置する中山間地域であり広島県の豪雪地帯でもあり、少子高齢化が進む過疎地域である。地域・保護者は子供達を「地域の宝」、「未来の地域の担い手」として、地域ぐるみで温かく見守り、育てている。学校に寄せる期待が大きいと同時に、学校に対する地域・保護者の支援も絶大である。地域内には、保育園 2 園（町立・私立）、こども園 1 園（小学校に併設）、小学校 5 校、中学校 1 校、高等学校 1 校（県立学校の分校）がある。いずれも 10 名弱から 40 数名の小規模校であり、毎年減少傾向にある。保育園や高等学校の協力のもと、芸北ブロック研究会を組織し、13 年間を見通した教育を進めている。平成 6 年からの「芸北教育開発プロジェクト」に端を発し「連携型中高一貫教育校」や「研究開発学校指定」により教育内容の充実や連携教育について、今日まで研究を積み重ねている。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ①課題 ア 家庭や地域とともに確かな学びを創る特色ある教育計画の想像と推進を図る
 - ・合同授業・集合学習・交流学习（共同研究・実践）
 - イ ふるさとを生かし、新しい時代を築く開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る
 - ・（保・小・中・高との交流・連携、一貫教育）
- ②内容 ア 「芸北学園構想」という理念を基にした学校経営
 - イ 学習指導や生活指導において、共通性や系統性を持たせ児童生徒に一貫した教育を行い、力をつける取組（連携型中高一貫教育校「芸北教育研究会」発足）
 - ウ 論理的思考力・表現力、コミュニケーション能力を育てる取組

(2) 公開授業

- ①公開授業Ⅰ ・集合学習 1 年（音楽） ・3・4 年複式（国語） ・美和小 3・4 年複式（国語）
- ②公開授業Ⅱ ・集合学習 2 年（体育） ・集合学習 5 年（国語） ・特別支援（生活単元）

4 所感

芸北地域は「一貫校長会」が研究の中心となり、複式を切り離して 5 小学校同学年児童を一枚に集めて行う集合学習に取り組んでいた。小規模校の持つ良さを生かしながら更に多人数による学習を進めている。各校の学習進度に差異が生じる中、同じ学習内容で、あたかも始めから 1 学級のように意見を交わして学習している様子は、相互交流・相互思考によって啓発されるものの見方や論理的思考力、コミュニケーション能力の育成に成果を発揮していると感じた。複式授業では、学習リーダーが学習の見通しを基に素晴らしいリーダー性を発揮して主体的に学習に取り組み、児童がつなぎ、深め合う授業を行っていた。また、13 年間を見通した教育計画を基に、どの学校職員も自校の子供として共通意識を持ち、指導に傾注していることに感心させられた。

分科会では、小規模校の連携における集合学習や乗り入れ学習、合同学習の活用について発表があり、今後の有機的、効果的活用について課題を持って更に深化しようという心意気が伝わってきて、複式学級を抱える自分の学校での取り組み方に大変参考となった。

B 2 分科会

芸北の担い手となる、確かな学力と豊かな心を身につけた子どもの育成

～国際社会・実社会で生きる

論理的思考力とコミュニケーション能力の育成(保小中高一貫教育)～

沼田市立平川小学校長 吉野 隆哉

1 会場校 広島県北広島町立芸北小学校

2 地域・学校の概要

北広島町立芸北地域(旧芸北町)は、広島県の北西部、中国山地の脊梁部に位置し、北側の1000m級の山々は島根県と接する。冬季は積雪が1mを越える地域もある。

地域には、保育園2園(町立・私立)、こども園1園(小学校に併設)、小学校5校、中学校1校、高等学校(県立学校の分校)1校がある。小学校は、いずれも10名弱から40数名の小規模校であり、児童生徒数は毎年減少傾向にある。また、小学校5校のうち3校は教頭が学級担任をしている。

3 研究の概要

(1) 研究課題・内容

- ① 家庭や地域と共に確かな学びを創る特色ある教育活動の創造と推進を図る。研究内容として、合同授業・集合学習・交流学習(共同研究・実践)。
- ② ふるさとを生かし、新しい時代を築く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る。研究内容として、保・小・中・高との交流・連携、一貫教育(異校種間連携)。

(2) 研究の実際

- ①保小連携教育 ②小小連携教育 ③小中連携教育 ④中高連携 ⑤小高連携
- ⑥ 共通の指導(複式授業・保小中高一貫で統一した考え・共通事項を踏まえ指導を行う)

(3) 芸北地区各小中学校の公開授業

○北広島町立芸北小学校(B-2)

1校時-芸北小3・4年算数、八幡小3・4年算数、雲月小3・4年算数

2校時-5小学校6年算数

○この他、北広島町立雄鹿原小学校で6授業、北広島町立芸北中学校で4授業が公開された。

4 所感

芸北小学校は、1・2年がそれぞれ単式、3・4年複式、5・6年複式、特別支援学級1の5学級、全校児童31名の小規模校である。

公開された3・4年複式は、芸北小を会場に芸北小、八幡小、雲月小がそれぞれ算数の授業を行った。どの学級も、別の学習内容を1つの教室、1人の担任で行っていて、授業運営の難しさを感じたが、児童は上手に授業を進めていた。担任が他学年の授業を進める際は、児童だけで学習をすることになるので、それが主体的な学習態度を養うことになるのだと感じた。ただし、訓練するにはかなりの時間を要するとも思った。

また2校時の5小学校6年生による合同算数は、体積の学習だった。各学校で自分なりの解き方を何通りも学習シートにかいて持ち寄り、それを発表しながら他(他校)の児童と交流し、さらに考えを深めるというものだった。5小学校(各校1～7人)で24人の合同授業だったが、児童は臆することなく堂々と発表していたし、自分の考えを上手に説明していた。交流により考えがより深まるすばらしい授業だった。

芸北地区の研究発表によると、この地区の児童は「自己主張が苦手で初対面の人とうまくコミュニケーションがとりにくい」「多様な考えをもち筋道を立てて考えること、的確に自分の考えを表現することが苦手」だったとのことである。その子たちが保育園からスタートする保小中高で数年間(3・4年生で4・5年、6年生で7年間)一貫した教育を施すことにより、このように成長するというのを児童の姿から教えられた。参考になることの多い分科会だった。

B 3 分科会

芸北の担い手となる、確かな学力と豊かな心を身に付けた子どもの育成

～国際社会・実社会で生きる論理的思考力とコミュニケーション能力の育成～
(保小中高一貫教育)

沼田市立多那中学校教諭 高橋 保茂

1 会場校 北広島町立芸北中学校 (生徒数 63 名 単式 3 学級 特別支援学級 1 学級)

2 地域・学校の概要

北広島町芸北地域は、広島県の北西部に位置し島根県に接した山間地である。主な産業は野菜やリンゴの栽培であるが、山沿いでは 1 m を超える降雪を生かしたスキー場とグランドゴルフ場などを併設し、四季を通じた観光に力をいれている。地域には幼 2 保 1 小 5 中 1 高 1 の小規模校があるが、どこも児童生徒数は減少傾向にあり、大切な未来の担い手である子どもたちを地域で温かく見守るとともに学校に大きな期待を寄せている。

地域は「芸北学園構想」の理念に基づいた研究組織を設けて、13 年間の一貫性・系統性を高めながら主題を具現化するための取組を進めている。芸北中学校は、5 校の小学校が集まる学校であり、小学校や高等学校と連携しながら特色ある教育活動を展開している。リンゴ畑を挟んで隣接する加計高等学校北芸分校とは、相互乗り入れ授業や合同授業などを行い 6 年間を見通した系統的な指導を進めており、毎年 6 割以上の中学生が進学している。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 合同授業・集合学習・交流学习 (共同研究・実践)
- ② 保・小・中・高との交流・連携、一貫教育 (異校種間連携)

(2) 公開授業

- ① 授業 I 1 年数学 (習熟度別授業) 標準 11 名 発展 12 名
3 年英語 (高校教員乗り入れによる習熟度別授業) 標準 10 名 発展 16 名
- ② 授業 II 2 年総合的な学習の時間 (中高合同授業) 中学生 13 名 芸北分校 10 名

4 所感

小規模校には、自分の考えを十分に表現できる子どもを育てたいという共通の願いがある。公開された数学の授業では、習熟度別クラスの中で少数の生徒でも活発に意見交換ができるようポイントを示して交流させていた。芸北分校との合同授業は、高校生がリードをする形で地域の特産品であるリンゴの収穫と選別の方法を学び、質の向上や普及させるためのアイデアを積極的に出し合っていた。2 時間の授業と研究発表で保小中高の多様な連携内容を提示していただいたが、職員間の交流も含め、綿密な計画によって取組を深め主題に迫っていることが分かった。子どもは地域の宝であるとして学校への支援や協力が大きい地域の期待にこたえるため、芸北地域のすべての学校が協力して長期の見通しをもった連携・一貫教育を進めており、地域と学校が一体となって大切に子どもを育てていることを感じた。

全体会の終わりに芸北分校の生徒が演じた迫力のある神楽を鑑賞して、まさに地域に育てられた子どもが地域の担い手として、愛着と誇りをもって生活していることを実感した。



加計高等学校芸北分校生徒による「神楽」

C分科会

「豊かな学び」を身につけた子どもの育成

～学びのプロセスを中心とした、情報活用能力を高める授業づくりを通して～

高崎市立倉渕東小学校教諭 清水 淳志

1 会場校 広島県三原市立大草小学校（児童数 42 名 4 学級 職員数 10 名）

2 地域・学校の概要

三原市は、広島県の南西部に位置し、広島空港、山陽自動車道、J R 山陽新幹線、三原港など、陸・海・空の交通の要衝であり、多様な自然を擁した歴史あるまちである。大草小学校は、三原駅の北西、三原駅まで車で 30 分、広島空港まで 20 分の場所に位置し、標高 291m、なだらかな山々に囲まれた緑豊かな小高い丘にある。校区内の世帯数は約 500 戸、人口約 1500 人でお年寄りの占める割合が増えてきている。全校児童数は 42 名、1 年、2 年が単式、3・4 年と 5・6 年が複式という 4 学級の小規模校である。児童の家庭はほとんどが兼業農家である。保護者や地域の人々は、学校に対してたいへん協力的であり、学校教育に強い関心を寄せている。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ①自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と見通しを持たせる工夫
 - 子どもが探究したくなる課題提示の工夫・・・「？」を子どもの中に生み出す
 - 調べる方法を身につける指導の工夫・・・知識・技能の習得
- ②表現力を高め、伝え合い学び合う授業の工夫
 - 評価し合う場の工夫・・・いつ、だれに、どのように、どんなことを
 - 個々の力の高まりが分かる評価（ルーブリック評価）の工夫

(2) 公開授業

①公開授業Ⅰ

第 1 学年 生活科「あきになったね きもちいいね」～なにをしてあそぼうかな～

第 2 学年 生活科「もっと知りたいな 大草のこと」～秋の大草を見てきたよ～

第 3・4 学年 総合的な学習の時間「元気！ふるさと 大草」～大草の元気 発見！～

第 5・6 学年 総合的な学習の時間「考えよう！実行しよう！ふるさと大草まちづくり計画」

②公開授業Ⅱ

全校発表「自分が好き みんなが好き 学校が好き ふるさとが好き」

4 所感

大草小学校の取り組みで特に印象的だったのは、徹底して地域に密着した学習を行っていたことである。公開された授業だけでなく、どの学年においても児童が地域に出たり、地域の人たちを招いたりして行った数多くの取り組みが校内の掲示物において紹介されていた。

研究協議にも、これまで学習に関わってきた地域の方々が来てくださり、「子どもたちが訪ねてきてくれたり、声を掛けてくれたりすることで、とても元気をもらっている。学校が地域を支えてくれている」と話してくださった。本校の取り組みからは、へき地の学校が抱えている課題以上に、温かい地域の人々に支えられながら、少人数だからこそ可能な実践を行うことができるへき地小規模校のよさを感じることができた。地域の人々の願いと教師たちの努力が一体となった素晴らしい取り組みであった。

D分科会

ふるさとの学びを生かし 豊かに表現する子どもの育成

～ふるさとの学びとひびきあう関わりを通して～

中之条町立六合中学校校長 小野塚 則幸

1 会場校 広島県尾道市立百島小学校・中学校

(小学校：児童数12人、低中高の複式学級3 中学校：生徒数8人、普通学級3、1級地)

2 地域・学校の概要

百島は広島県の南東部にある尾道市中心部から南東へ海上 10km の位置にある周囲 10km の離島である。昔は 3,000 人ほど住んでいたが、過疎化・高齢化・少子化が進み、今では総人口 620 人で、そのうち 60 % が高齢人口 (65 歳以上) である。この小さな島の産業は漁業や農業が続けられている。百島イチゴや百島の貝 (アサリ) は有名である。

学校は、平成 12 年に広島県内で初めての幼小中併設校としてスタートし今に至っている。子どもたちは「地域の宝」であり、地域に見守られて成長している。学校・保護者・地域が一体となる行事も多く、地域の学校教育に対する関心も高い。特に、小学校 1・2 年生は生活科において幼稚園保育と合同教育を実施したり、中学校教諭が専門性を生かし、小学校の教科の乗り入れ指導にあたることで、複式授業を解消したりし、よりきめ細かな指導を実践している。行事等では幼・小・中の枠を取り払って同じ目線で子どもたちの生きる力を育てている。

3 研究の概要

(1) 研究内容 (以下の研究仮説を掲げて実践している)

仮説 1 ふるさと百島の「人・もの・こと」にかかわる活動を充実させるならば、課題解決にかかる意欲や判断力・思考力・表現力を高めることができる。そして、ふるさと百島、学校、自分への矜持の念を高め、自分に自信を持つであろう。(「ふるさとの学び」の創造)

仮説 2 いろいろな表現活動において、形態 (場の大きさ、関わる人、評価、内容など) を工夫するならば、響き合い (競い合い、学び合い、認め合いによる高め合い) により一人一人が表現力を伸ばし、「自らに自信を持ち豊かに表現する」であろう。(「ひびきあう学び」の創造)

(2) 公開授業

第一校時：幼稚園児と小学校低学年、小学校中高学年、中学校全学年

幼稚園児と小学校低学年「おいものがへんしん」(保育・生活科)

小学校中高学年「見つめよう 私たちの百島」(総合的な学習の時間)

中学校全学年「見つめよう 私たちの百島」(総合的な学習の時間)

第二校時：

小学校全学年「群読脚本を作って発表会を開こう『ジャングルジムのうた』」(国語科)

中学校全学年「郷土を愛する心『御弓神事』」(道徳)

4 所感

離島の学校の教育活動を観させていただき、予想以上に大きな感動が残った。子どもたちがのびのびしている。児童・生徒数の 7 倍以上の参観者を相手に堂々とした発言・発表をしていた。ここまで育ててきた学校側の努力を推し量ると胸が熱くなった。本当にすばらしく島育ちのハンディを感じさせることなく教育活動が進んでいた。今回の経験を自校経営に生かしたい。

F 分科会

説明力を育てる教育の創造

～算数科・理科の授業改善を通して～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 飯泉 尚士

1 会場校 広島県三次市立作木小学校（児童数77名 7学級 職員数15名）

2 地域・学校の概要

本校の校区は、広島県北部の三次市作木町一円である。江の川流域から校歌にも歌われている女亀山までの標高差は720mにもおよび、その中に約800戸が点在している。

本校は、平成14年に作木村立の3小学校が統合して1村1小学校となり、平成16年4月の市町村合併に伴い三次市立作木小学校となった。本年度の児童数は77名で、多くの児童が町内全域からスクールバスを利用して登下校している。また、町内1小・中学校ということで、ほとんどの児童が同一の保育所、小学校、中学校で共に学んでいる。

本校の教育内容の特色は、豊かな自然環境と文化の継承や生活向上を志す人的環境を生かした活動を設定しているところである。世界中のどこであっても自信をもって活躍できるように、ふるさと作木で学んだことを基盤として、確かで豊かな学力を定着させること、豊で健やかな心身を育てることをめざして取り組んでいる。

3 研究の概要

(1) 研究の仮説

3つの力（「普遍的な規則性を共有する力」「根拠を挙げて説明する力」「つながりのある説明をする力」）が高まれば、児童の説明力は向上するであろう。

(2) 研究の主な内容

- 「説明力」を育てる授業スタイルの確立
- 「説明力」を育てるための発問・手立ての工夫
- 単元・教材の価値と「普遍的な規則性」の明確化
- 追求の意欲をもって算数的活動、実験・観察に取り組ませる工夫
- 教育機器の効果的活用

(3) 公開授業

- ①公開授業Ⅰ 1年【算数】、2年【算数】、
特別支援学級3・4年【算数】、
3・4・5・6年【理科】
- ②公開授業Ⅱ 全校発表
「大好き作木！ みんなの作木！」
【生活科】【総合的な学習の時間】



4 所感

各授業において、「説明力」を育てるため、「説明するための言葉」をまずは定着させる指導をどの学年においても行っていた。一人が考えを発表した後、「理由を言えます。」「違う考えです。」などと、自分の意見の種類を明確にするような、発言が随所に見られた。日頃から継続して指導していくことが、このような力の育成には必須なのではないかと感じた。2校時は、全校児童による作木についての演劇発表が行われた。飛来数（作木への）日本一の鳥（ブッポウソウ）の視点から、地元を紹介していくという、ユニークな仕立てになっており、歌や太鼓などを交えた発表であった。どの児童も堂々と、自信をもって発表を行うことができおり、とてもさわやかな印象を受けた。それぞれの教師が得意分野を十分に生かし児童の指導を行っていたようである。

本校を訪問して、教師の共労・協力としての一つの見本を示していただいたように思えた。また、へき地という特性上、地域・保護者からの期待は大きいですが、大きな協力・密接なかかわりがもちやすいということも、今回の発表から改めて感じる事ができた。

G分科会

思考力・表現力を高めるための授業づくり

～小規模校の特色を生かした口和中学校「学びのサイクル」に基づく授業～

東吾妻町立岩島中学校教諭 小林 秀之

1 会場校 広島県庄原市立口和中学校（全校生徒数55名 学級数4クラス 準へき地校）

2 地域・学校の概要

口和町は広島県の北東部に位置し、平成17年3月に近隣の7市町村が新設合併し、庄原市となった。農業・畜産が盛んな地域であり、近年では瓢箪づくりもなされ、世界一長い瓢箪づくりを目指してギネスブックにも挑戦している。人口は平成22年5月末現在、2,344人で過疎化・高齢化が進んでいる。

口和中学校の教育は 生徒会執行部が中心になって創り上げた「さわやかな挨拶をする学校」「真心清掃をする学校」「時間を大切にしている学校」（ノーチャイム）「授業で全員発言をする学校」「全員が部活動に取り組む学校」「ワンランク上の資格をめざす学校」の6つの校風を柱に進めている。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① すべての教育活動に「6つの校風」の視点を取り入れた取組の創造

② 学力の向上を図るための指導方法や指導内容の工夫改善

口和中学校「学びのサイクル」『しっかり教える→じっくり考えさせる→はっきり表現させる→授業の振り返りを通して学習意欲を向上させる』に沿った取組を行う

③ 小規模校の特色を生かした「口和教育」の推進

④ 研修の充実

(2) 公開授業Ⅰ 第1学年 数学「比例と反比例」

第2学年 国語「事実と意見」モアイは語る－地球の未来

第3学年 英語「Unit5 Cell Phones-For or Against」

特別支援学級 2学年英語「Unit5 Part1 注文をしよう」

公開授業Ⅱ 全学年 総合的な学習の時間 単元名：表現活動「口和の四季」

4 所感

口和中学校の教室は1. 2. 3年生が隣同士で並び、廊下はオープンスペースになっていて生徒の作品が飾られ、日常的に異学年の生徒同士が交流できる環境が整えられていた。生徒の授業態度は意欲的で、小グループの話し合いの場面では活発な意見交換が行われていた。

口和中学校の生徒はほとんど学習塾へ通っていないこともあって学力向上への地域の期待はかなり大きいと聞いた。このため、口和中学校では学びのサイクルに基づき授業改善を図るとともに、家庭学習時間30分を1本とカウントし、3年生は100本勝負を目指していた。学校、家庭、地域が一体となって口和地区の生徒の健全育成に取り組む熱意がひしひしと伝わってきた。「口和だからこそできる教育」、「口和だからこそしなければならない教育」とは何か、この2つの問いが、今回の研究の重要なキー・ワードである。これを自校に当てはめて、自校の課題を把握し、口和中学校学びのサイクルのような児童生徒の実態に合ったモデルを作成し、授業改善に向けた実践を積み重ねることが、基礎学力の向上や生徒の健全育成、地域との信頼関係の構築につながると感じた。

資 料

I 平成22年度 へき地学校資料

〈1〉 級別へき地学校数

（（ ）内は、内数で休校中の学校である。）

平成22. 5. 1現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	A 計 分校	B 県全体 分校	$\frac{A}{B}$
	小学校	17	3	6	8	2	1(1)	0	37 1(1)	339 3(2)
中学校	8	2	2	5	2	1(1)	0	20 1(1)	171 1(1)	11.7%
計	25	5	8	13	4	2(2)	0	57 2(2)	510 4(3)	11.2%

〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

平成22. 5. 1現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	小計	合計	
	小学校	本校	17	3	6	8	2	0	0	36
分校		0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	
中学校	本校	8	2	2	5	2	0	0	19	20 (1)
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	

〈3〉 級別へき地学校児童生徒数

平成22. 5. 1現在

校種別 \ 級別	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級	計 (A)	県全体 (B)	$\frac{A}{B}$
	小学校	1,380	592	301	473	137	0	0	2,883	114,650
中学校	636	312	124	384	62	0	0	1,518	57,508	2.6%
計	2,016	904	425	857	199	0	0	4,401	172,158	2.6%

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

（ ）内は、内数で休校中の学校である。

平成22.5.1現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計	
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定					県 準			
					4	3	2	1	準		特		
1	前 橋	小	1(1)	1(1)		1(1)							1(1)
		中	1(1)	1(1)		1(1)							1(1)
2	渋 川	1		1							1		1
3	高 崎	4		4				1	2		1		4
		1		1					1				1
4	安 中	3		3							3		3
		1		1							1		1
5	多 野	2		2			1	1					2
		2		2			2						2
6	甘 楽	2		2							2		2
		2		2							2		2
7	吾 妻	15		15			1	5	1	3	5		15
		9		9				4		1	4		9
8	沼 田	2		2					1		1		2
		2		2						1		1	2
9	利 根	7		7				1	2		4		7
		2		2				1		1			2
総	小 計	36	1(1)	37(1)	0	1(1)	2	8	6	3	17		37(1)
		19	1(1)	20(1)	0	1(1)	2	5	2	2	8		20(1)
計	計	55	2(2)	57(2)	0	2(2)	4	13	8	5	25		57(2)

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成22.5.1現在

郡市	学年	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年	学級数計	学校数
高 崎		1	1	2	0	1	0	0	5	3
安 中		1	1	1	0	2	0	0	5	2
多 野		0	1	1	0	1	0	0	3	2
甘 楽		1	1	1	1	1	0	0	5	2
吾 妻		1	0	2	0	1	0	0	4	2
利 根		2	0	4	0	4	0	0	10	4
計		6	4	11	1	10	0	0	32	15

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計 (A)		県全体(B)		(A)÷(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	0	17	0	10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7	
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	0	15	0	9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6	
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	0	14	0	9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5	
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	0	14	0	9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0	
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	0	11	0	9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5	
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	0	11	0	9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4	
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	0	3	0	9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2	
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	0	4	0	8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0	
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	0	4	0	8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9	
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	0	1	0	7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7	
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	0	1	0	7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6	
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	0	2	0	7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5	
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	0	1	0	7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5	
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	9	11	9	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2	
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	8	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3	
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7	7	6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4	
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5	5	6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0	
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9	9	5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5	
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8	8	5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5	
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8	8	5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4	
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3	3	5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4	
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0	0	5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3	
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0	0	4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4	
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0	0	4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4	
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0	0	4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4	
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0	0	4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1	
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0	0	3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3	
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0	0	3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7	
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0	0	3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7	
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0	0	3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6	
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0	0	3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7	
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0	0	2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5	
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0	0	2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4	
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0	0	2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6	

II 平成22年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成22.5.1現在

会長 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)
 副会長 宮前鋹十郎 (多野：神流町長) 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長)
 千明 金造 (利根：片品村長)
 理事 佐藤 博之 (前橋：前橋市教育長) 小林巳喜夫 (渋川：渋川市教育長)
 中島 雅利 (高崎：高崎市教育長) 中澤 四郎 (安中：安中市教育長)
 西澤 晃 (多野：上野村教育長) 高木 成雄 (甘楽：下仁田町教育長)
 谷川 猛 (吾妻：中之条町教育委員長) 星野巳喜雄 (沼田：沼田市長)
 千明 金造 (利根：片品村長)

評議員

郡市	町村	評議員
前橋市		佐藤 博之 (教育長)
渋川市		小林 巳喜夫 (教育長)
高崎市		中島 雅利 (教育長)
安中市		中澤 四郎 (教育長)
多野郡	上野村	西澤 晃 (教育長)
	神流町	齋藤 義久 (教育長)
甘楽郡	下仁田町	高木 成雄 (教育長)
	南牧村	土屋 東一郎 (教育長)
	甘楽町	柴山 豊 (教育長)
吾妻郡	中之条町	唐澤 正明 (教育長)
	長野原町	黒岩 文夫 (教育長)
	嬭恋村	萩原 良一 (教育長)
	草津町	浅香 勝 (教育長)
	高山村	高平 秀三 (教育長)
	東吾妻町	(教育長)
沼田市		津久井 勲 (教育長)
利根郡	片品村	星野 準一 (教育長)
	昭和村	板橋 芳郎 (教育長)
	みなかみ町	牧野 堯彦 (教育長)

監事 黒岩 文夫 (吾妻：長野原町教育長) 星野 準一 (利根：片品村教育長)

平成22年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局書記・会計 飯泉 尚士・中村 宏基

郡市町村	連絡先	事務担当者	へき地担当指導主事
前橋市	前橋市教育委員会	奥田 尚之	佐藤 和彦
渋川市	渋川市教育委員会	野本 泉	
高崎市	高崎市教育委員会	砂田 尚美	大倉 猛
安中市	安中市教育委員会	岩崎 聡	
上野村	上野村教育委員会	今井 孝男	
神流町	神流町教育委員会	新井 岩男	
甘楽郡	西部教育事務所	塚越 真由美	小林 克典
吾妻郡	吾妻教育事務所	臼井 淳一	
沼田市	沼田市教育委員会	大竹 敏之	中島 潔
利根郡	利根教育事務所	佐藤 芳雄	

Ⅲ 平成22年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 小野塚 則幸(吾妻：中之条町立六合中学校)
- ・副理事長 井上 優(甘楽：甘楽町立第三中学校)
- 桑原 三七次(吾妻：長野原町立北軽井沢小学校)
- 原澤 和弥(利根：みなかみ町立幸知小学校)
- ・常任理事 有阪 俊人(安中：安中市立坂本小学校)
- 吉野 隆哉(沼田：沼田市立平川小学校)
- ・事務局長 乾 姫志美(吾妻：嬭恋村立干俣小学校)
- ・会計部長 水出 正一(吾妻：嬭恋村立田代小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地（電話番号）	備考
A 多野 ・甘楽 ・安中 ・高崎 ・前橋	井上 優	甘楽町立第三中学校	甘楽郡甘楽町秋畑2438-1 (0274-74-9503)	副理事長 調査部長
	有阪 俊人	安中市立坂本小学校	安中市松井田町坂本1323 (027-395-2428)	常任理事
	飯出 哲夫	神流町立中里中学校	多野郡神流町神ヶ原422 (0274-58-2517)	
	住谷 孝明	高崎市立倉渕東小学校	高崎市倉渕町三ノ倉515 (027-378-3216)	
	並木 伸一	下仁田町立西牧小学校	甘楽郡下仁田町西野牧4641-1 (0274-84-2232)	
B 吾妻	小野塚則幸	中之条町立六合中学校	中之条町生須543-1 (0279-95-3572)	理事長
	桑原三七次	長野原町立北軽井沢小学校	長野原町北軽井沢1924 (0279-84-3010)	副理事長
	乾 姫志美	嬭恋村立干俣小学校	嬭恋村干俣1313 (0279-96-0454)	事務局長

B 吾 妻	高橋 俊昭	中之条町立六合小学校	中之条町小雨599-1 (0279-95-3571)	
	水出 正一	嬭恋村立田代小学校	嬭恋村田代438 (0279-98-0042)	会計部長
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	原澤 和弥	みなかみ町立幸知小学校	利根郡みなかみ町幸知101 (0278-72-3513)	副理事長
	吉野 隆哉	沼田市立平川小学校	沼田市利根町平川839 (0278-56-2009)	常任理事
	堤 義樹	片品村立片品南小学校	利根郡片品村花咲2118 (0278-58-3521)	会計監査
	石北 直樹	みなかみ町立藤原小・中学校	利根郡みなかみ町藤原3491 (0278-75-2102)	
	横坂 隆司	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2919)	
「板木」 実務 担当	小林 勝	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	

IV 平成22年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻東部	中澤 章文	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町大字伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
吾妻西部	橋詰 忠明	嬭恋村嬭恋会館内	〒377-1526 嬭恋村大字三原691 (0279-80-2330)
利 根	吉澤 博通	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 平成22年度へき地教育功労者

No.	氏名	該当する内規・功績の概要
1	もてき よういち 茂木 要一 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に神流町立中里中学校校長として退職するまで、多野郡内のへき地学校等に35年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	あらい たつこ 新井 たつ子 神流町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に神流町の主幹栄養専門員として退職するまで、神流町のへき地学校等に35年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	もてき かよこ 茂木 佳世子 上野村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に上野村立上野中学校教諭として退職するまで、多野郡内のへき地学校等に37年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	しもむら すずむ 下村 進 高崎市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に高崎市立倉渕中学校校長として退職するまで、旧倉渕村(現高崎市)内のへき地学校等に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	もき としこ 茂木 俊子 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成21年3月に六合村立六合中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	なかざわ ゆきお 中澤 幸夫 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に中之条町立名久田小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	いわたき ようこ 岩瀧 庸子 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に中之条町立伊参小学校養護教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	やまだ まつみ 山田 まつみ 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に中之条町立中之条小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	おおたに まさよ 大谷 政代 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に中之条町立中之条小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	くろいわ とみこ 黒岩 登美子 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に長野原町立西中学校用務員として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	はしづめ ただあき 橋詰 忠明 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に嬭恋村立西小学校校長として退職するまで、吾妻郡、利根郡内のへき地学校等に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	しのはら たえこ 篠原 妙子 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に嬭恋村立東小学校校長として退職するまで、吾妻郡、利根郡内のへき地学校等に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	あんざい よしこ 安齋 よし子 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に嬭恋村立東小学校公仕として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に20年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
14	くろいわ ゆきえ 黒岩 幸恵 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に草津町立草津小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
15	まるやま ひろし 丸山 博司 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に草津町立草津小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

16	こばやし えいじ 小林 英次 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年2月に草津町立草津小学校教諭として死亡退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
17	こぐれ ひでとし 木暮 秀利 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に高山村立高山中学校校長として退職するまで、吾妻郡、利根郡内のへき地学校等に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
18	あらい まさし 新井 正 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に高山村立高山中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に20年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
19	たむら たろう 田村 太郎 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立岩島小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
20	たむら しのぶ 田村 しのぶ 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立岩島小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
21	こいけ よしお 小池 佳夫 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立坂上小学教頭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
22	わたぬき たかこ 綿貫 孝子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立坂上小学教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
23	もてき としお 茂手木 俊雄 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立原町中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に20年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
24	たかはし はるお 高橋 治男 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立岩島中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
25	いわたき ひでき 岩瀧 秀樹 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立坂上中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に26年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
26	ふくだ たけし 福田 武 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に東吾妻町立坂上中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に18年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
27	たかはし ただし 高橋 忠 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に沼田市立川田小学校校長として退職するまで、利根郡内のへき地学校等に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
28	いまい たかし 今井 孝史 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に沼田市立薄根中学校校長として退職するまで、利根郡、吾妻郡内のへき地学校等に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
29	かねた みえこ 金田 美恵子 沼田市教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に沼田市立薄根小学校教諭として退職するまで、沼田市、利根郡内のへき地学校等に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
30	ほしの ふじえ 星野 ふじえ 片品村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成22年3月に片品村立片品北保育所調理員として退職するまで、利根郡内のへき地学校等に21年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第59集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来とぎれることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

近年の群馬県におけるへき地学校を取り巻く状況の変化は大きなものがあります。児童・生徒数が減少し、学校の統廃合も各地で行われております。先年度末の統廃合はなく、今年度より2校と1分校がへき地校の指定を離れ、新たに4校がへき地校指定を受けました。このため、群馬県へき地教育研究連盟も加盟校が1校増となりましたが、今年度末には6校の統廃合が予定されるなど、今後統廃合が続き加盟校の減少が続くと思われまます。へき地教育は、大きな課題に直面しています。

群馬県へき地教育研究連盟も、4ブロックから3ブロックへの編成替えが行われ3年目となりました。今年度は、Aブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽地区）として初めて編集を担当いたしました。デジタルカメラの普及・Eメールの活用により、スムーズに編集を進めることができたことをありがたく思いました。難しい課題を抱える中でへき地教育に邁進している多くの方々から、ご多用の中にもかかわらず、原稿執筆・編集等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成22年度のへき地教育の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第59集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、この第59集の編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

群馬県教育委員会	堀澤 勝（義務教育課長）
	黒澤 英樹（義務教育課 指導係長）
	飯泉 尚士（義務教育課 指導係 指導主事）
	中村 宏基（義務教育課 指導係 指導主事）
群馬県へき地教育研究連盟	
	小野塚則幸（県へき連 常任理事・理事長）
	井上 優（県へき連 常任理事・副理事長・調査部長）
	桑原三七次（県へき連 常任理事・副理事長・総務部長）
	原澤 和弥（県へき連 常任理事・副理事長）
	乾 姫志美（県へき連 常任理事・事務局長）
	水出 正一（県へき連 常任理事・会計部長）
	吉野 隆哉（県へき連 常任理事・研究部長）
	有阪 俊人（県へき連 常任理事）
	飯出 哲夫（県へき連 理事）
	住谷 孝明（県へき連 理事）
	並木 伸一（県へき連 理事）
	高橋 俊昭（県へき連 理事）
	堤 義樹（県へき連 理事）
	石北 直樹（県へき連 理事）
	横坂 隆司（県へき連 理事）
	小林 勝（「板木」実務担当）